

県民モニター臨時アンケート調査結果

－兵庫県将来構想試案への意見－

2021年6月

兵 庫 県

目次

I	結果要旨	2
1	調査概要	2
2	結果概要	3
II	調査結果	5
	回答者の属性	5
	問1 重視すべき未来シナリオはどれか	6
	(1) 概観	6
	(2) 属性別の傾向	7
	問2 その未来シナリオを選んだ理由等	11
	(1) 第1位～第10位	11
	(2) 第11位～第20位	31
	(3) 第21位～第39位	35
	問3 その他将来構想試案への感想、新しい将来ビジョンへの意見	38

I 結果要旨

現在、兵庫県では、30年後を展望する新しい将来ビジョンの検討を進めている。新ビジョンの方向性について県民の声を広く聴くため、本年2月に作成した新ビジョンのたたき台となる「兵庫県将来構想試案」を素材として、県民モニターを対象に自由記述を中心とする臨時アンケート調査を実施した。

1 調査概要

- 1 調査対象 県民モニター2,190人
- 2 調査期間 2021（令和3）年4月8日～22日
- 3 調査方法 県ホームページ上のアンケートフォームに入力
- 4 回答者数 1,073名（回答率49.0%）
- 5 調査項目 将来構想試案の39の未来シナリオのうち重視すべきシナリオ3つとその理由

<調査票>

臨時アンケート調査

令和3年4月 兵庫県

現在、県では、30年後の2050年の兵庫のめざす姿を示す新しい将来ビジョンの検討を進めています（本年度内策定目標）。2月には、「将来こうなっていたらいいな」という社会の姿を39の未来シナリオとして示した「将来構想試案」を作成しました。これをもとに、県民の皆さんとより具体的な将来のあるべき姿を考えていきたいと思っています。

そこで、県民モニターの皆様に、この「将来構想試案」をご覧ください、率直なご意見をお寄せいただきたく、臨時のアンケート調査を実施することとしました。

以下のURLから「将来構想試案」（全8ページ）の39の未来シナリオをご一読いただいた後、良いと思った未来シナリオ3つとその理由をご回答ください。

お忙しいところ大変恐縮ですが、ご協力よろしく願いいたします。

※詳細版（全74ページ）も合わせて掲示しています。

問1 「将来構想試案」の39の未来シナリオの中から、是非このような未来であってほしい、このような視点を重視すべきと感じたシナリオを3つ選んでください。

問2 問1で選んだ未来シナリオについて、選ばれた理由をそれぞれ記入ください。こうすればもっと良くなる、この点は注意すべき、こんな取組がシナリオの実現に役立つのではないかなどのご意見もあれば是非ご記入ください。（最大300字）

問3 その他、将来構想試案への感想、将来への期待や不安に感じていることなど、兵庫県の新しい将来ビジョンへのご意見を自由にお書きください。（最大300字）

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

2 結果概要

将来構想試案の 39 の未来シナリオに対して県民モニター1,073 名から寄せられた意見を兵庫県の新しい将来ビジョンの検討に活かすため、テキストマイニングの手法も活用し、膨大な意見の中から見えてくる新ビジョンの課題と方向性を考察する形で調査結果を取りまとめた。

問1 重視すべき未来シナリオはどれか

<概観>

- ✓ 将来構想試案の 39 の未来シナリオのうち重視すべきシナリオ第1位は「16 最期まで安心して暮らせる社会」で、計 393 票と群を抜いて多くの支持を集めた。県全体で進む人口の高齢化を反映し、人生の最期まで安心して暮らせる社会の実現を求める県民が多いことが分かった。

<重視すべき未来シナリオ トップ10>

順位	6本柱	未来シナリオ	得票数
1位	Ⅲ つながりの再生	16 最期まで安心して暮らせる社会	393
2位	Ⅲ つながりの再生	15 楽しく子育てできる社会	201
3位	Ⅱ 開放性の徹底	11 活躍するシニア	179
4位	Ⅰ 個性の追求	2 活力を支える健康	172
5位	Ⅰ 個性の追求	1 自分らしさを追求できる社会	150
6位	Ⅱ 開放性の徹底	8 多文化が入り混じる兵庫	134
7位	Ⅰ 個性の追求	3 あふれる学びの場	122
7位	Ⅰ 個性の追求	6 ものづくり産業の革新	122
9位	Ⅵ 次代への責任	37 危機に強い地域	118
10位	Ⅳ 集中から分散へ	22 自然と共にある暮らし	113

<属性別の選択の傾向>

- ✓ 性別：「7 進化する御食国」「10 なくなるジェンダーバイアス」「23 自由になる働き方」は女性の方が支持。「6 ものづくり産業の革新」「26 進化する自治体」「29 甦る豊かな自然」は男性の方が支持。
- ✓ 年齢：年代が上がるほど「11 活躍するシニア」「14 つながりを広げ、深める社会」を支持。年代が下がるほど支持が増えるのは「23 自由になる働き方」。若い世代ほど自由な働き方を求める傾向。
- ✓ 居住地域：「21 都市と田舎の共生」は都市部より地方部が支持。「6 ものづくり産業の革新」「8 多文化が入り混じる兵庫」「14 つながりを広げ、深める社会」「25 快適になる移動」も地域差が顕著。

問2 その未来シナリオを選んだ理由等

<第1位：16 最期まで安心して暮らせる社会>

- ✓ 老後に不安を感じている人の多さが背景にある。介護の受け皿が十分でないことへの不安、年金だけでは暮らしていけない不安、独り身で暮らすことへの不安のほか、寝たきりへの不安も大きい。

<第2位：15 楽しく子育てできる社会>

- ✓ 今の社会が必ずしもそうではないことを窺わせる。経済的な問題、子育て家庭の孤立、親の働き方、受験社会、安心して外遊びができる場所の少なさなど、子供を取り巻く環境の厳しさが背景にある。

<第3位：11 活躍するシニア>

- ✓ 時間を持て余している高齢者が多いこと、生活のために歳をとっても働いて収入を得る必要がある人がいること、超高齢社会では働ける人が働かないと社会の維持が難しいことが背景にある。

<第4位：2活力を支える健康>

- ✓ 健康と生涯活躍を一体的に捉えている人が多い。健康でなければ必ずしも長寿が望ましいとは言えないとの声に象徴されるように、寝たきりや認知症にならずに老いることへの強い願望がある。

<第5位：1自分らしさを追求できる社会>

- ✓ 自分らしさを追求できる人生が一番幸せ、各人の個性が大切にされる社会であることが一番大事といった意見が多数。一方で「固定観念」「同調圧力」など自分らしさの阻害要因を挙げる声も多い。

<第6位：8多文化が入り混じる兵庫>

- ✓ いち早く外国の文化を取り込んできた強みを更に伸ばすのが兵庫らしいとの意見が多数。今後海外の労働力に頼らざるを得ないので外国人と共生する社会を築いていく必要があるとの意見も多い。

<第7位：3あふれる学びの場>

- ✓ 変化の激しい時代だからこそ、また、伸びる寿命を豊かに生き切るためにも、生涯を通じた学びが重要と考える人が多数。学ばなければ置いていかれるといった焦りを感じている人も多い模様。

<第7位：6ものづくり産業の革新>

- ✓ ものづくりが兵庫の産業の特色として認知され、その発展が強く期待されている。時代の変化に対応するためにはこれまでの殻を破る取組が必要で、そのために企業の経営革新が求められている。

<第9位：37危機に強い地域>

- ✓ 安全は、あらゆる生活、産業の基盤であるとの意見が多数。コロナ禍により国、自治体の危機管理能力向上の必要性が痛感される中、迫りくる南海トラフ地震への備えを急ぐべきとの意見が多い。

<第10位：22自然と共にある暮らし>

- ✓ 自然に囲まれて暮らすのが本来の人間のあり様だとする意見が多数。また、大都市に隣接して山、川、海の多様な自然環境を有する兵庫ならではの強みを活かせる将来像だと意見も多い。

<その他>

- ✓ 「14つながりを広げ、深める社会」では、つながりの希薄化を懸念する声が多く。何をつながりと思うかは世代によって異なることを前提に、今後育てるべきつながりの形を探っていく必要がある。
- ✓ 「32人に投資する社会」では、人が最大の資源との意見が多数。人材育成にこそ税金を使うべき、子供の教育の充実が必要、社会全体で大人の学び直しを促進する必要があるとの声が聞かれた。

問3 その他将来構想試案への感想、新しい将来ビジョンへの意見

- ✓ 未来シナリオの数が多すぎる、項目を絞った明確で分かりやすいビジョンにすべきとの意見が多数。
- ✓ 未来はこれから生まれてくる者のためにあるとの主旨から、教育が最も重要との意見が聞かれた。
- ✓ 新ビジョンの策定に当たっては幅広い県民の声、特に若者の意見を聞くべきとの意見が聞かれた。
- ✓ 新ビジョンの具体化に期待する声が多く。ポイントを絞った革新的な取組に期待が集まっている。

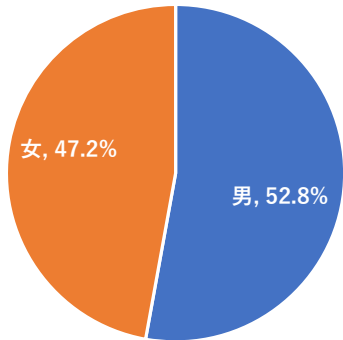
(参考) テキストマイニングについて

自由記述で得られた計約16万4千字を分析するため、大量の文字データから有用な情報を取り出す「テキストマイニング」の手法を活用。具体的には、樋口耕一立命館大学教授が開発したソフト「KH Coder」を用いて、各問の回答中の頻出語を抽出し、抽出語間の関係の遠近、強弱を表す「共起ネットワーク図」を作成して抽出語間の関係性を見える化した上で、回答傾向の考察を行った (p.11~30 参照)。

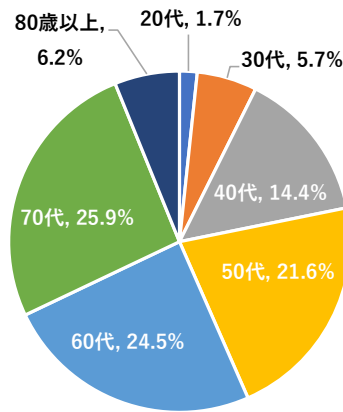
II 調査結果

回答者の属性

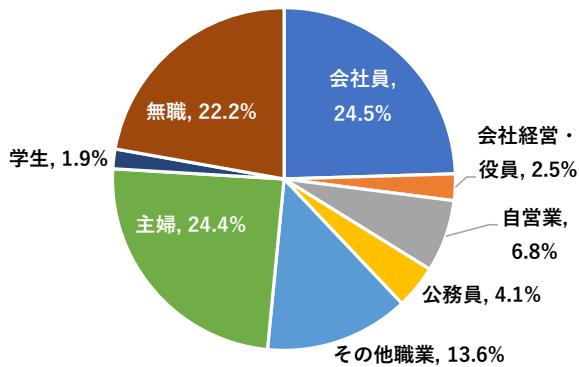
※回答者の属性（性別、年齢、職業、居住地域）は県民モニター登録情報より識別



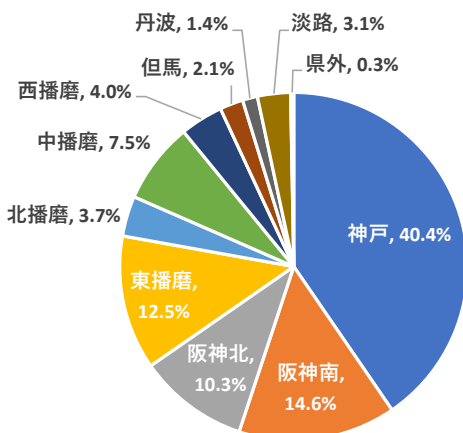
性別	対象者数	属性別比率	回答者数	回答率	属性別比率
男	1,015	46.3%	567	55.9%	52.8%
女	1,175	53.7%	506	43.1%	47.2%
計	2,190		1,073	49.0%	



年齢	対象者数	属性別比率	回答者数	回答率	属性別比率
10代	1	0.05%	0	—	—
20代	70	3.2%	18	25.7%	1.7%
30代	220	10.0%	61	27.7%	5.7%
40代	391	17.9%	155	39.6%	14.4%
50代	475	21.7%	232	48.8%	21.6%
60代	476	21.7%	263	55.3%	24.5%
70代	449	20.5%	278	61.9%	25.9%
80代	104	4.7%	65	62.5%	6.1%
90代	3	0.1%	1	33.3%	0.1%
100代	1	0.05%	0	—	—
計	2,190		1,073	49.0%	



職業	対象者数	属性別比率	回答者数	回答率	属性別比率
会社員	597	27.3%	263	44.1%	24.5%
会社経営・役員	53	2.4%	27	50.9%	2.5%
自営業	131	6.0%	73	55.7%	6.8%
公務員	92	4.2%	44	47.8%	4.1%
その他職業	284	13.0%	146	51.4%	13.6%
主婦	576	26.3%	262	45.5%	24.4%
学生	56	2.6%	20	35.7%	1.9%
無職	401	18.3%	238	59.4%	22.2%
計	2,190		1,073	49.0%	



居住地域	対象者数	属性別比率	回答者数	回答率	属性別比率
神戸	849	38.8%	434	51.1%	40.4%
阪神南	307	14.0%	157	51.1%	14.6%
阪神北	231	10.5%	110	47.6%	10.3%
東播磨	289	13.2%	134	46.4%	12.5%
北播磨	100	4.6%	40	40.0%	3.7%
中播磨	166	7.6%	81	48.8%	7.5%
西播磨	100	4.6%	43	43.0%	4.0%
但馬	42	1.9%	23	54.8%	2.1%
丹波	40	1.8%	15	37.5%	1.4%
淡路	59	2.7%	33	55.9%	3.1%
県外	7	0.3%	3	42.9%	0.3%
計	2,190		1,073	49.0%	

問1 重視すべき未来シナリオはどれか

(1) 概観 ～第1位は「16 最期まで安心して暮らせる社会」で2位以下を大きく引き離す～

- ・将来構想試案の39の未来シナリオのうち重視すべきシナリオを3つずつ選んでもらった結果、得票数1位は「16 最期まで安心して暮らせる社会」で、計393票と群を抜いて多くの支持を集めた。
- ・次いで2位「15 楽しく子育てできる社会」計201票、3位「11 活躍するシニア」計179票、4位「2 活力を支える健康」計172票、5位「1 自分らしさを追求できる社会」計150票の順である。
- ・県全体で進む人口の高齢化を反映し、生涯を通じて健康であることや活躍の場があることも含めて、人生の最期まで安心して暮らせる社会の実現を求める県民が非常に多いことが分かった。また、少子化への危惧もあり、安心して出産・育児ができる社会の実現を求める県民が多いことも分かった。

<重視すべき未来シナリオ投票結果>

順位	6本柱	未来シナリオ	得票数
1位	Ⅲ つながりの再生	16 最期まで安心して暮らせる社会	393
2位	Ⅲ つながりの再生	15 楽しく子育てできる社会	201
3位	Ⅱ 開放性の徹底	11 活躍するシニア	179
4位	Ⅰ 個性の追求	2 活力を支える健康	172
5位	Ⅰ 個性の追求	1 自分らしさを追求できる社会	150
6位	Ⅱ 開放性の徹底	8 多文化が入り混じる兵庫	134
7位	Ⅰ 個性の追求	3 あふれる学びの場	122
7位	Ⅰ 個性の追求	6 ものづくり産業の革新	122
9位	Ⅵ 次代への責任	37 危機に強い地域	118
10位	Ⅳ 集中から分散へ	22 自然と共にある暮らし	113
11位	Ⅰ 個性の追求	5 磨かれる五国の個性	90
12位	Ⅲ つながりの再生	14 つながりを広げ、深める社会	88
13位	Ⅳ 集中から分散へ	21 都市と田舎の共生	87
14位	Ⅵ 次代への責任	38 安全を支える強靱な基盤	78
15位	Ⅲ つながりの再生	19 進む地域経済循環	69
16位	Ⅳ 集中から分散へ	25 快適になる移動	66
17位	Ⅵ 次代への責任	32 人に投資する社会	61
18位	Ⅰ 個性の追求	7 進化する御食国	59
18位	Ⅳ 集中から分散へ	23 自由になる働き方	59
20位	Ⅴ 美の創生	29 甦る豊かな自然	57
21位	Ⅰ 個性の追求	4 沸き立つ起業	55
21位	Ⅱ 開放性の徹底	12 ユニバーサルな地域	53
23位	Ⅱ 開放性の徹底	10 なくなるジェンダーバイアス	48
24位	Ⅱ 開放性の徹底	9 世界に貢献する兵庫人	45
24位	Ⅴ 美の創生	30 息づく芸術文化	45
26位	Ⅲ つながりの再生	17 広がる縁	42
27位	Ⅴ 美の創生	28 引き継がれる風景	35
28位	Ⅳ 集中から分散へ	26 進化する自治体	34
28位	Ⅵ 次代への責任	36 カーボンニュートラルな暮らし	34
30位	Ⅵ 次代への責任	35 地域のエネルギー自立	33
31位	Ⅵ 次代への責任	39 受け継がれる地域	28
32位	Ⅲ つながりの再生	20 自分たちでつくる地域	27
33位	Ⅲ つながりの再生	18 スポーツが育むつながり	24
34位	Ⅵ 次代への責任	33 開かれた学校	23
35位	Ⅳ 集中から分散へ	24 軽くなる住まい	19
36位	Ⅵ 次代への責任	34 未知の領域への挑戦	17
37位	Ⅴ 美の創生	27 とともに創るまち	15
38位	Ⅱ 開放性の徹底	13 バーチャルが拓く可能性	10
39位	Ⅴ 美の創生	31 広がる生活文化産業	8

(2) 属性別の傾向

《性別》 ～男女で顕著な差はないが、「23 自由になる働き方」は男性より女性が支持～

- ・重視すべき未来シナリオの選択において、男女でそれほど大きな差は見られなかった。
- ・多くの人が特に重視すべきと考える未来シナリオに関しては、あまり男女差がない。全体1位の「16 最期まで安心して暮らせる社会」が男女とも1位、全体2位の「楽しく子育てできる社会」が男女とも2位。また、全体3位の「11 活躍するシニア」が男性3位・女性4位、全体4位の「2 活力を支える健康」が男性4位・女性3位である。
- ・一方で、男女差のある未来シナリオも少なからずある。男性より女性の方が重視すべきと答えた人が特に多いのが「7 進化する御食国」「23 自由になる働き方」「10 なくなるジェンダーバイアス」である。逆に女性より男性の方が重視すべきと答えた人が特に多いのが「39 受け継がれる地域」「29 甦る豊かな自然」「26 進化する自治体」「6 ものづくり産業の革新」である。
- ・女性が男性より「23 自由になる働き方」や「10 なくなるジェンダーバイアス」を重視するのは、女性の方が男性よりも働き方やジェンダーバイアスの問題を実感している人が多いからであろう。

《年齢》 ～「23 自由になる働き方」は年齢差が顕著、若い世代ほど強く支持～

- ・年齢による差は一定あるが、多くの人が重視すべきと考える未来シナリオに関しては、ほとんど差がない。全体1位の「16 最期まで安心して暮らせる社会」、2位の「楽しく子育てできる社会」、4位の「2 活力を支える健康」、5位の「1 自分らしさを追求できる社会」は、全年代で支持されている。
- ・年齢による差が顕著な未来シナリオの第一は、「23 自由になる働き方」である。70代39位、60代21位、50代10位、40代8位、40歳未満4位と年代が下がるほど支持が高まる。若い世代ほど働き方の自由度の高さを強く求めていることの証左であろう。
- ・逆に年代が上がるほど支持が高まるのは「11 活躍するシニア」である。40歳未満で26位、40代で8位だが、50代以降の年代では2～3位を占める。また、「14 つながりを広げ、深める社会」も、40歳未満30位、40代19位、50代19位だが、60代13位、70代5位、80歳以上3位となっている。
- ・「25 快適になる移動」は40代、50代から強く支持されている。ダイナミックに移動することの多い働き盛りの年代ほど移動手段の革新を求める傾向が強いと考えられる。
- ・「6 ものづくり産業の革新」は全体で7位だが、40歳未満に限ると20位と支持されていない。若い世代の製造業への期待感の低さの表れであろうか。

《居住地域》 ～多くの人が重視すべきと考える未来シナリオに地域差はない～

- ・多くの人が重視すべきと考える未来シナリオに関しては、ほとんど地域差がない。全体1位「16 最期まで安心して暮らせる社会」、2位「15 楽しく子育てできる社会」、3位「11 活躍するシニア」、4位「2 活力を支える健康」、5位「1 自分らしさを追求できる社会」は、全地域で支持されている。
- ・逆に地域差が見られた未来シナリオは、まず「21 都市と田舎の共生」である。地方部で多くの支持を集めるが、都市部ではそうでもない。また、「6 ものづくり産業の革新」は但馬、丹波では低調だが、その他の地域では支持されている。「8 多文化が入り混じる兵庫」は但馬、西播磨では低調だが、その他の地域では概ね高い支持を得ており、特に神戸・阪神間では多くの人が支持している。さらに、「14 つながりを広げ、深める社会」は中播磨、淡路では低調だが、丹波、西播磨では高い支持を得ており、神戸・阪神間でも比較的多くの人が支持している。
- ・「25 快適になる移動」は他地域に比して阪神北、但馬、丹波、淡路で多くの支持を集めており、これらの地域の移動に課題があることを窺わせる。

《性別・年齢別》

柱	未来シナリオ	全体		男		女		40歳未満		40代		50代		60代		70代		80歳以上	
		票数	順位	票数	順位	票数	順位	票数	順位	票数	順位	票数	順位	票数	順位	票数	順位	票数	順位
I 個性の 追求	1 自分らしさを追求できる社会	150	5位	79	6位	71	5位	11	4位	14	11位	29	6位	44	5位	43	5位	9	7位
	2 活力を支える健康	172	4位	88	4位	84	3位	8	9位	14	11位	30	4位	56	2位	48	3位	16	2位
	3 あふれる学びの場	122	7位	64	8位	58	8位	12	3位	21	3位	26	7位	19	12位	38	6位	6	11位
	4 沸き立つ起業	55	21位	32	18位	23	22位	4	20位	8	21位	12	22位	10	24位	16	17位	5	14位
	5 磨かれる五国の個性	90	11位	53	11位	37	14位	8	9位	11	16位	20	12位	15	16位	26	12位	10	6位
	6 ものづくり産業の革新	122	7位	85	5位	37	14位	4	20位	20	4位	15	16位	33	9位	36	8位	14	3位
	7 進化する御食国	59	18位	18	30位	41	11位	9	8位	10	18位	17	13位	11	21位	10	24位	2	20位
II 開放性 の 徹底	8 多文化が入り混じる兵庫	134	6位	65	7位	69	6位	6	13位	18	6位	30	4位	35	7位	38	6位	7	9位
	9 世界に貢献する兵庫人	45	24位	24	21位	21	24位	6	13位	6	27位	6	29位	10	24位	13	20位	4	15位
	10 なくなるジェンダーバイアス	48	23位	13	33位	35	18位	6	13位	11	16位	12	22位	11	21位	6	29位	2	20位
	11 活躍するシニア	179	3位	97	3位	82	4位	2	26位	15	8位	35	3位	53	3位	60	2位	14	3位
	12 ユニバーサルな地域	53	22位	30	19位	23	22位	10	6位	8	21位	5	30位	15	16位	14	19位	1	26位
	13 パーチャルが拓く可能性	10	38位	2	39位	8	34位	0	37位	2	36位	5	30位	1	39位	2	37位	0	33位
III つながり の 再生	14 つながりを広げ、深める社会	88	12位	45	13位	43	10位	1	30位	9	19位	13	19位	18	13位	36	8位	11	5位
	15 楽しく子育てできる社会	201	2位	109	2位	92	2位	23	1位	28	2位	45	2位	49	4位	48	3位	8	8位
	16 最期まで安心して暮らせる社会	393	1位	195	1位	198	1位	18	2位	51	1位	89	1位	98	1位	108	1位	29	1位
	17 広がる縁	42	26位	22	23位	20	25位	1	30位	12	13位	8	25位	7	30位	13	20位	1	26位
	18 スポーツが育むつながり	24	33位	15	32位	9	33位	4	20位	7	24位	0	39位	7	30位	4	33位	2	20位
	19 進む地域経済循環	69	15位	33	17位	36	17位	2	26位	12	13位	14	17位	17	14位	18	15位	6	11位
IV 集中から 分散へ	20 自分たちでつくる地域	27	32位	19	28位	8	34位	0	37位	4	31位	2	38位	8	27位	13	20位	0	33位
	21 都市と田舎の共生	87	13位	50	12位	37	14位	6	13位	12	13位	21	10位	22	11位	20	14位	6	11位
	22 自然と共にある暮らし	113	10位	64	8位	49	9位	8	9位	19	5位	17	13位	35	7位	27	10位	7	9位
	23 自由になる働き方	59	18位	19	28位	40	12位	11	4位	15	8位	21	10位	11	21位	1	39位	0	33位
	24 軽くなる住まい	19	35位	7	37位	12	30位	2	26位	2	36位	7	27位	5	32位	3	35位	0	33位
	25 快適になる移動	66	16位	28	20位	38	13位	6	13位	15	8位	25	8位	12	19位	6	29位	2	20位
V 美の 創生	26 進化する自治体	34	28位	23	22位	11	32位	1	30位	7	24位	7	27位	9	26位	9	27位	1	26位
	27 ともに創るまち	15	37位	8	36位	7	36位	4	20位	1	38位	5	30位	2	36位	2	37位	1	26位
	28 引き継がれる風景	35	27位	21	24位	14	28位	6	13位	4	31位	5	30位	8	27位	10	24位	2	20位
	29 甦る豊かな自然	57	20位	38	15位	19	26位	1	30位	5	30位	16	15位	14	18位	18	15位	3	17位
	30 息づく芸術文化	45	24位	21	24位	24	20位	5	19位	8	21位	10	24位	12	19位	9	27位	1	26位
VI 次代への 責任	31 広がる生活文化産業	8	39位	5	38位	3	39位	0	37位	0	39位	3	37位	2	36位	3	35位	0	33位
	32 人に投資する社会	61	17位	37	16位	24	20位	7	12位	6	27位	13	19位	16	15位	15	18位	4	15位
	33 開かれた学校	23	34位	11	35位	12	30位	3	24位	6	27位	5	30位	3	35位	6	29位	0	33位
	34 未知の領域への挑戦	17	36位	12	34位	5	38位	1	30位	4	31位	4	36位	2	36位	4	33位	2	20位
	35 地域のエネルギー自立	33	30位	16	31位	17	27位	1	30位	9	19位	13	19位	4	34位	5	32位	1	26位
	36 カーボンニュートラルな暮らし	34	28位	21	24位	13	29位	1	30位	4	31位	8	25位	8	27位	10	24位	3	17位
	37 危機に強い地域	118	9位	57	10位	61	7位	10	6位	17	7位	24	9位	43	6位	23	13位	1	26位
	38 安全を支える強靱な基盤	78	14位	45	13位	33	19位	3	24位	7	24位	14	17位	24	10位	27	10位	3	17位
	39 受け継がれる地域	28	31位	21	24位	7	36位	2	26位	4	31位	5	30位	5	32位	12	23位	0	33位

《居住地域別》

柱	未来シナリオ	神戸		阪神南		阪神北		東播磨		北播磨		中播磨		西播磨		但馬		丹波		淡路	
		票数	順位	票数	順位	票数	順位	票数	順位	票数	順位	票数	順位	票数	順位	票数	順位	票数	順位	票数	順位
I 個性の 追求	1 自分らしさを追求できる社会	60	6位	25	3位	12	9位	20	5位	5	7位	7	11位	6	5位	8	1位	1	10位	5	3位
	2 活力を支える健康	74	4位	21	6位	24	2位	18	7位	8	2位	9	7位	4	12位	4	4位	1	10位	9	2位
	3 あふれる学びの場	45	9位	14	10位	13	6位	27	2位	3	14位	9	7位	6	5位	3	6位	1	10位	1	22位
	4 沸き立つ起業	24	18位	10	16位	5	20位	6	22位	1	25位	2	29位	3	15位	1	15位	1	10位	2	14位
	5 磨かれる五国の個性	27	15位	13	12位	11	12位	14	8位	3	14位	6	13位	6	5位	3	6位	2	6位	5	3位
	6 ものづくり産業の革新	50	8位	11	15位	12	9位	20	5位	6	6位	15	3位	5	8位	0	26位	0	23位	3	9位
	7 進化する御食国	22	20位	6	24位	5	20位	13	11位	2	18位	3	22位	3	15位	0	26位	0	23位	5	3位
II 開放性 の 徹底	8 多文化が入り混じる兵庫	64	5位	25	4位	13	6位	14	8位	5	7位	8	10位	2	19位	0	26位	1	10位	2	14位
	9 世界に貢献する兵庫人	17	24位	7	21位	6	18位	7	18位	2	18位	3	22位	1	26位	0	26位	0	23位	1	22位
	10 なくなるジェンダーバイアス	17	24位	12	13位	4	25位	9	14位	4	10位	1	34位	1	26位	0	26位	0	23位	0	31位
	11 活躍するシニア	76	3位	29	2位	17	4位	22	4位	5	7位	11	6位	11	1位	2	9位	3	3位	3	9位
	12 ユニバーサルな地域	20	22位	10	16位	3	29位	4	29位	7	3位	5	18位	1	26位	0	26位	0	23位	3	9位
	13 バーチャルが拓く可能性	3	38位	2	35位	3	29位	1	36位	0	31位	1	34位	0	34位	0	26位	0	23位	0	31位
III つながり の 再生	14 つながりを広げ、深める社会	42	10位	14	10位	9	14位	7	18位	2	18位	3	22位	5	8位	1	15位	3	3位	1	22位
	15 楽しく子育てできる社会	83	2位	24	5位	22	3位	24	3位	7	3位	19	2位	7	3位	8	1位	2	6位	4	6位
	16 最期まで安心して暮らせる社会	170	1位	61	1位	37	1位	46	1位	15	1位	25	1位	11	1位	8	1位	9	1位	10	1位
	17 広がる縁	20	22位	7	21位	2	32位	3	31位	1	25位	5	18位	1	26位	1	15位	0	23位	2	14位
	18 スポーツが育むつながり	10	30位	2	35位	2	32位	3	31位	1	25位	2	29位	2	19位	0	26位	0	23位	1	22位
	19 進む地域経済循環	26	16位	6	24位	8	15位	10	13位	4	10位	6	13位	4	12位	1	15位	2	6位	2	14位
	20 自分たちでつくる地域	11	28位	5	28位	0	37位	6	22位	1	25位	1	34位	1	26位	1	15位	0	23位	1	22位
IV 集中から 分散へ	21 都市と田舎の共生	30	13位	4	31位	12	9位	7	18位	7	3位	9	7位	7	3位	4	4位	4	2位	3	9位
	22 自然と共にある暮らし	40	11位	18	7位	15	5位	14	8位	2	18位	12	4位	5	8位	3	6位	0	23位	4	6位
	23 自由になる働き方	21	21位	12	13位	4	25位	9	14位	2	18位	3	22位	2	19位	1	15位	3	3位	2	14位
	24 軽くなる住まい	12	27位	3	32位	1	34位	3	31位	0	31位	0	39位	0	34位	0	26位	0	23位	0	31位
	25 快適になる移動	23	19位	8	20位	13	6位	6	22位	0	31位	6	13位	3	15位	2	9位	2	6位	3	9位
	26 進化する自治体	9	32位	6	24位	4	25位	4	29位	0	31位	6	13位	2	19位	1	15位	1	10位	1	22位
V 美の 創生	27 ともに創るまち	5	37位	3	32位	1	34位	1	36位	0	31位	3	22位	0	34位	1	15位	0	23位	0	31位
	28 引き継がれる風景	8	35位	3	32位	6	18位	7	18位	0	31位	6	13位	1	26位	0	26位	1	10位	2	14位
	29 甦る豊かな自然	25	17位	9	19位	7	17位	5	27位	4	10位	1	34位	2	19位	2	9位	1	10位	1	22位
	30 息づく芸術文化	17	24位	10	16位	5	20位	6	22位	3	14位	2	29位	1	26位	0	26位	1	10位	0	31位
	31 広がる生活文化産業	2	39位	2	35位	1	34位	0	39位	0	31位	2	29位	0	34位	0	26位	1	10位	0	31位
VI 次代への 責任	32 人に投資する社会	30	13位	6	24位	5	20位	5	27位	2	18位	5	18位	4	12位	1	15位	1	10位	2	14位
	33 開かれた学校	9	32位	2	35位	4	25位	2	34位	1	25位	2	29位	3	15位	0	26位	0	23位	0	31位
	34 未知の領域への挑戦	6	36位	2	35位	0	37位	2	34位	0	31位	3	22位	2	19位	2	9位	0	23位	0	31位
	35 地域のエネルギー自立	10	30位	5	28位	5	20位	8	16位	0	31位	1	34位	2	19位	1	15位	0	23位	0	31位
	36 カーボンニュートラルな暮らし	11	28位	7	21位	0	37位	8	16位	2	18位	3	22位	0	34位	0	26位	1	10位	2	14位
	37 危機に強い地域	51	7位	18	7位	10	13位	11	12位	4	10位	12	4位	5	8位	2	9位	1	10位	4	6位
	38 安全を支える強靱な基盤	36	12位	16	9位	8	15位	6	22位	1	25位	7	11位	1	26位	2	9位	0	23位	1	22位
	39 受け継がれる地域	9	32位	5	28位	3	29位	1	36位	3	14位	5	18位	0	34位	1	15位	0	23位	1	22位

<6 本柱で見た属性別の傾向>

《性別》

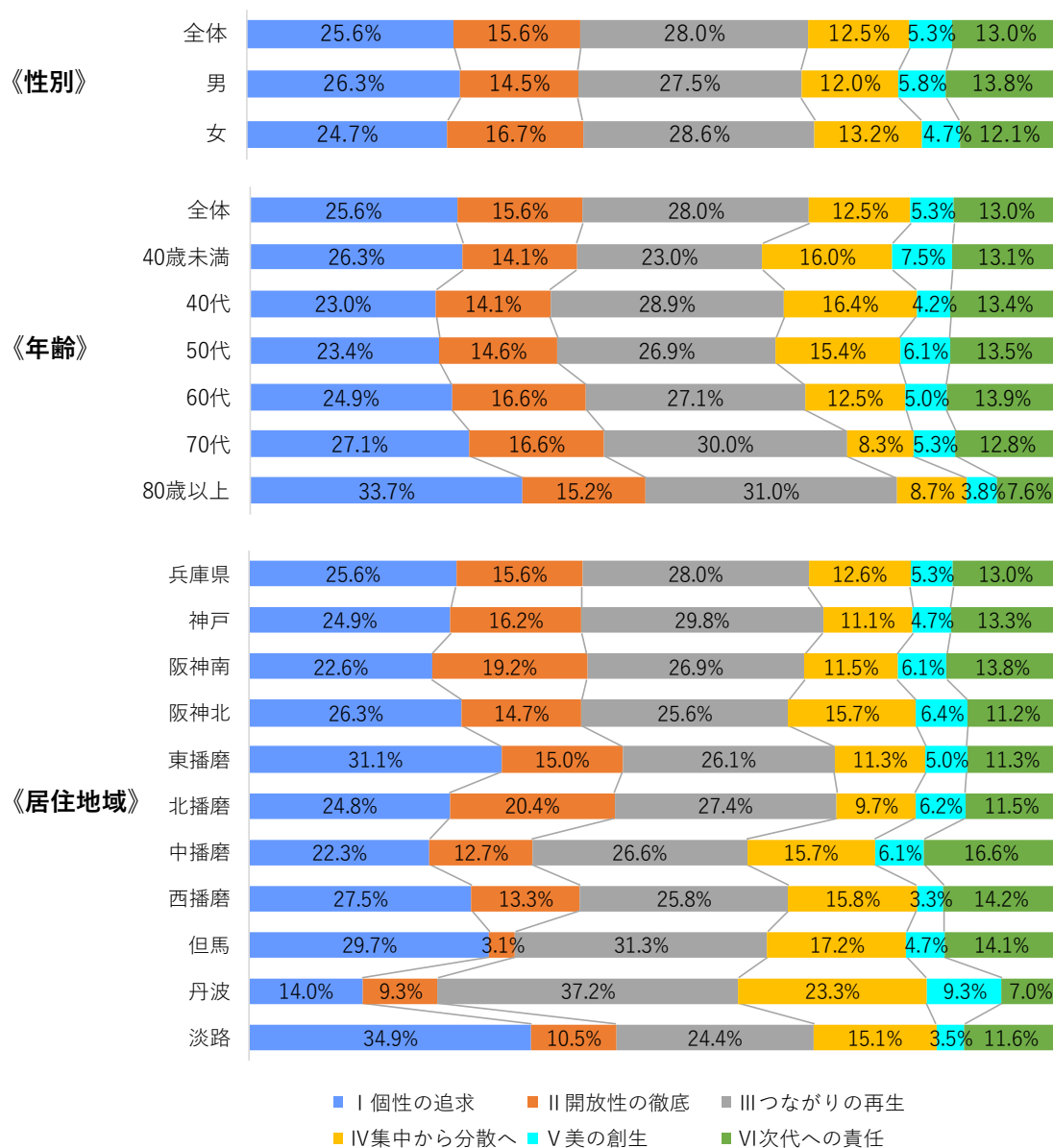
- ・男性が「Ⅰ個性の追求」を、女性が「Ⅱ開放性の徹底」を重視する傾向が見られる。主に未来シナリオ「10 なくなるジェンダーバイアス」の支持が女性で多く、男性で少ないことによるものである。

《年齢》

- ・年代が上がるほど「Ⅰ個性の追求」と「Ⅲつながりの再生」を重視する傾向が見られる。主に未来シナリオ「2 活力を支える健康」「6 ものづくり産業の革新」「14 つながりを広げ、深める社会」の支持が年代の高い層で多いことによるものである。
- ・若い世代ほど「Ⅳ集中から分散へ」を重視する傾向が見られる。主に「23 自由になる働き方」の支持が若年層で多いことによるものである。

《居住地域別》

- ・都市部で「Ⅱ開放性の徹底」を重視する傾向が見られる。主に未来シナリオ「多文化が入り混じる兵庫」の支持が都市部で多いことによるものである。
- ・地方部で「Ⅳ集中から分散へ」を重視する傾向が見られる。主に未来シナリオ「21 都市と田舎の共生」の支持が地方部で多いことによるものである。



問2 その未来シナリオを選んだ理由等

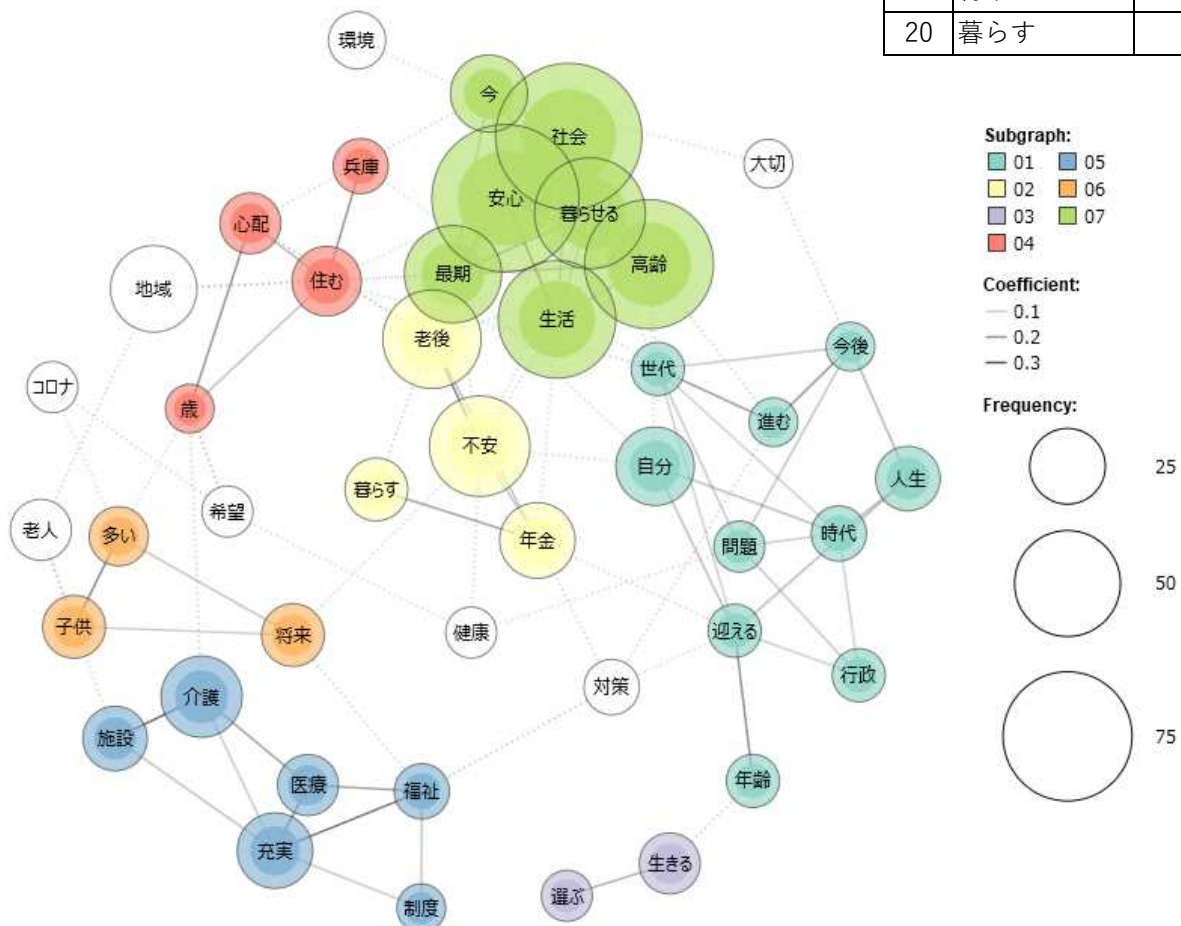
(1) 第1位～第10位

第1位：16 最期まで安心して暮らせる社会（393票）

～何よりもまず老後の不安の解消を～

- ・ 県民モニターが選ぶ重視すべき未来シナリオ第1位は「16 最期まで安心して暮らせる社会」である。2位の「15 楽しく子育てできる社会」の倍近い票を得、他を圧倒する支持を集めた。
- ・ 選んだ理由を見ると、頻出語は多い順に「安心」「社会」「高齢」「生活」「暮らせる」「不安」「老後」「最期」「地域」「介護」等である。
- ・ 頻出語間の関係を見ると、「安心」「社会」「高齢」「生活」「暮らせる」「最期」の関連が強く、また「不安」「老後」「年金」の関連も強い。さらに「介護」「充実」「施設」の関連も強い。
- ・ 老後の不安を訴える声が多く、地域の現状が「最期まで安心して暮らせる」状況にないことを窺わせる結果となった。
- ・ 老後の不安の要因としては、要介護になった時にその受け皿が十分でないことへの不安、年金だけでは暮らしていけないとする不安、独り身で暮らすことへの不安など、切実な声が寄せられている。また、尊厳死が難しく、寝たきりになることが不安との声も大きい。
- ・ 今後一層の高齢化、単身化が見込まれる中、「最期まで安心して暮らせる社会」の実現が、社会の最重要課題であることは明らかである。

順位	頻出語	出現回数
1	安心	98
2	社会	97
3	高齢	75
4	生活	62
5	暮らせる	55
6	不安	45
7	老後	43
8	最期	42
9	地域	33
10	介護	29
11	自分	27
12	今	26
13	充実	25
14	年金	25
15	住む	21
16	施設	18
17	人生	18
18	子供	17
19	将来	17
20	暮らす	17



<主な回答>

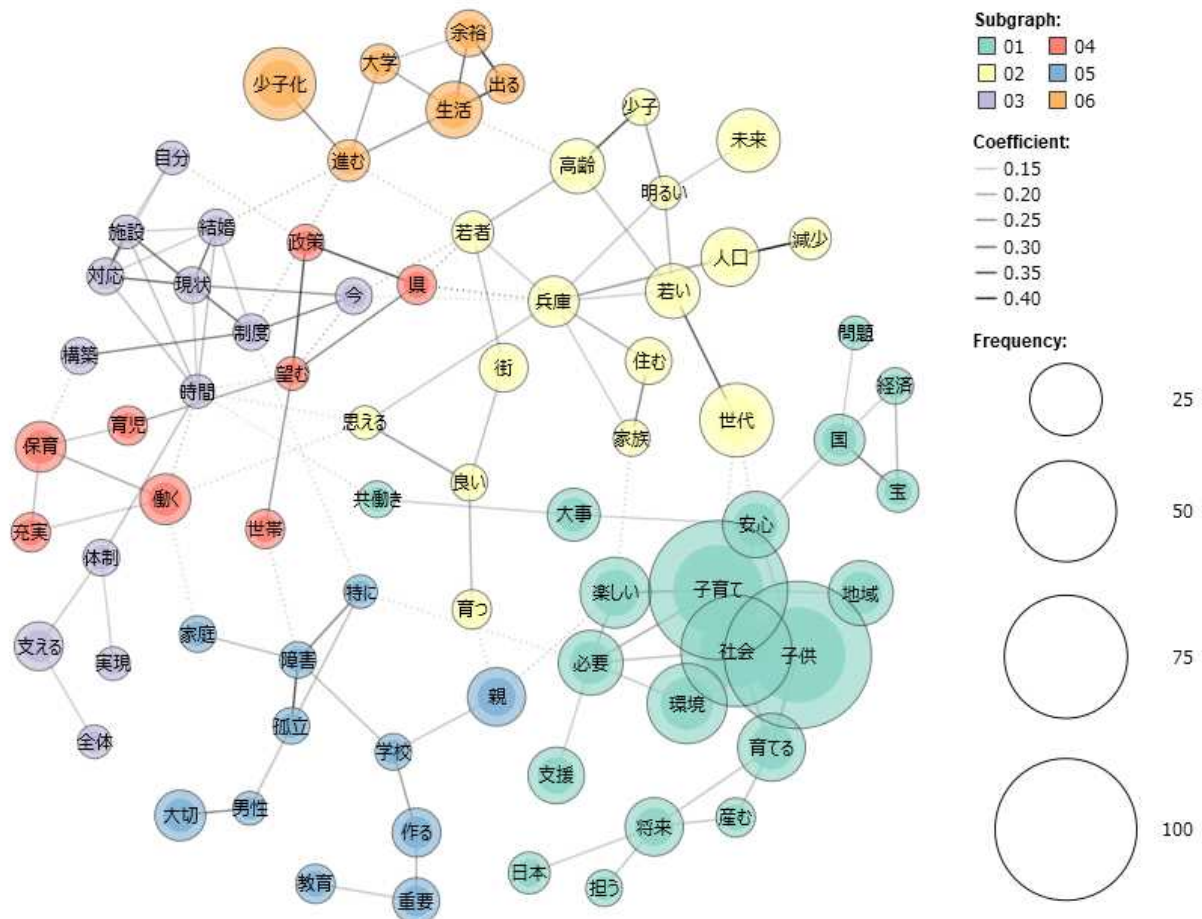
<p>(介護)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最期まで安心して暮らせる社会保障制度の確立を ・3人の親を介護した経験から病院や施設の渡り歩きが大変だった ・特別養護老人ホームは順番待ち、有料老人ホームは高額で敷居が高い ・今や長寿が周囲から喜ばれない社会だ。ケアする介護者も尊ばれていない ・自宅で最期まで過ごせるシステムづくりが必要 ・福祉サービスの充実、特に在宅生活を支える支援制度の確立が必要 ・障害のある人が、両親が亡くなってからも、安心して暮らしていけるようにしてほしい <p>(死)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・尊厳死の選択が自由になってほしい ・延命治療の中止、寝たきりにさせないなど、自分の意志で最期を迎えられる仕組みがほしい ・寿命が伸びるのはよいが、必要以上に生かされるのも大変だ ・死をタブー視せず、一人ひとりが自分の最期をきちんと考えるよう啓蒙していくことが大事 ・年齢を重ね、どのように最期を迎えるかを考えるようになってきた ・歳をとって周りに迷惑をかけたくない ・子どもに迷惑かけるくらいなら長生きしたくない <p>(孤独)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・去年母を看取ったが、私には最期を看取ってくれる子供がいない ・おひとり様が増えると老後が心配な人が増える ・独身なので、今後の人生に不安を覚える ・このまま一人で生きていけるのか不安 ・終わり良ければすべてよし、のはずが、終わりも孤独死など悲惨な状況ではどうにもならない ・一人で寂しい。人と気軽に話せる場所がほしい ・今後ひとり世帯が増えていくと思う。そうなのでも皆が安心して暮らせる社会であってほしい ・孤独と不安の老後は悲しい ・子供2人は他府県で暮らし、なんとなく寂しく、生活に張りがない。私の周りには似た人が多い 	<p>(年金)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年金に頼れない。貯金がないと暮らせない ・年金は下がり、税金は上がる。高齢に向かっていく者にとって不安でしかない ・非正規労働者の増加や年金支給額の減少など、貧富の差が拡大している ・年金に不公平感がある。老後の生活費が心配 <p>(地域の暮らしやすさ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域格差がありすぎる。諦めの老後ではなく、安心の老後を迎えられるようになってほしい ・農村部で、これから歳を重ねる身には心配。公共交通機関が充実していない地域はどうなるのか ・今の土地にずっと住み続けて行けるのか心配 ・人を集めて住まわすことが必要になる。スマートシティ化を進める条例を早期に制定すべき ・弱者中心のまちづくりをすることが大事 <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老後が不安な上、社会の先行きも不安だらけ ・将来に不安を抱えながら生きている人が多い ・人口が減っているのは世の中が不安だから。貧富の差が激しい。弱者の立場から政治をしてほしい ・歳をとっても最期まで楽しく元気に暮らせること。これが保証されれば、大半の問題が解決する ・高齢者が増加する社会を、皆が喜んで受け入れるようになってほしい ・年寄りが安らげる社会こそ最高の社会ではないか。誰でも必ずその時期を迎えるから ・ケアマネをしており、最期まで安心して暮らせることの難しさを毎日痛感している ・安心できる暮らしが保証されてこそ未来志向の考えが浮かぶ ・自分らしさを発揮するためには「最期まで安心して暮らせる社会」であることが前提 ・将来の生活がどうなるかわからない社会では、自分らしさを追求するところではない ・現役を退いてからが長いので、最期まで安心して暮らせることがこれまでに以上に大切 ・人生100年時代を「夢のある時代」として前向きに捉えられる社会にならないといけない
---	---

第2位：15 楽しく子育てできる社会 (201票)

～子供を取り巻く社会環境の改善を～

- ・重視すべき未来シナリオ第2位は「15 楽しく子育てできる社会」である。選んだ理由を見ると、頻出語は多い順に「子供」「子育て」「社会」「環境」「世代」「少子化」「楽しい」「育てる」「安心」等である。
- ・頻出語間関係を見ると、出現回数の多い言葉（「子供」「子育て」「社会」「環境」「楽しい」「育てる」「安心」等）同士の関連が強く、多くの人が共通して「楽しく」「安心して」子育てできる環境の実現を求めていることが読み取れる。現実の社会が必ずしも「楽しく」「安心して」子育てできる状況にないことの表れと考えられる。
- ・なぜ「楽しく」「安心して」子育てできないのか。様々な要因が考えられるが、回答からは、貧困を含む経済的な問題、子育て家庭の孤立、親（特に男親）の働き方、受験社会、安心して外遊びできる場所の少なさなど、子供と家庭を取り巻く社会環境の厳しさが窺われる。
- ・「楽しく子育てできる社会」は少子化を防ぐために必要と考える人も、やや独立した形で一定の勢力を保っている。少子化は国の危機であり、社会全体で子育て家庭をバックアップする必要があるとの意見である。だが、我が国における少子化の主要因は未婚化（結婚する男女の減少）であり、子育て環境が不十分であるために少子化が進んでいるわけでは必ずしもないことに留意する必要がある。

順位	頻出語	出現回数
1	子供	108
2	子育て	96
3	社会	61
4	環境	31
5	世代	26
6	少子化	25
7	楽しい	24
8	育てる	22
9	安心	21
10	地域	20
11	未来	19
12	将来	16
13	親	16
14	人口	16
15	支援	15
16	生活	15
17	高齢	14
18	若い	14
19	増える	14
20	大事	13



<主な回答>

(少子化への危惧)

- ・少子化が問題とされながら状況は変わっていない
- ・少子化は国の危機。社会全体で子育て家庭をバックアップする必要がある
- ・子供は未来そのもの。子育て環境を改善してこそより良い未来が創造できる
- ・産業も地域も若い世代がいないと発展しない
- ・子供は宝。子育てしにくい社会は滅ぶしかない
- ・子供がいないと地域が廃れる
- ・人口増を望むのであれば、高齢者より若者向けの政策に力を入れるべき

(子育て支援)

- ・子育て支援が手厚くなれば、兵庫に住む人口が増え、経済も活性化される
- ・子育て世代が一番生活が苦しい。お金のかかる高校、大学への手当がない。大学を無償化すべき
- ・少子化の大きな理由の一つが教育費の高さ。特に大学の授業料にメスが入っていない
- ・経済的な問題で子供を産めないといった状況をなくしていくことがまず大事
- ・3人目以降の子供に対する経済的支援を他府県より格段に充実させたらどうか
- ・子育てしながら働きやすい環境（病児保育、いじめ等のない学童保育など）の整備が必要
- ・保育所に入れるのがなぜこんなに難しいのか
- ・いろいろ支援はあるが、線につながっていないので結局どれだけ自分で情報を集められるか次第
- ・住む地域で医療費の所得制限が違うのはおかしい
- ・教育で貧富の差が出てしまう。そのことで子供が悲しむことのないようにしないといけない
- ・兵庫県は中学校給食の実施率が低く、子供の貧困への意識が低いと感じる

(親の働き方)

- ・働く大人が子育てを優先するのを当たり前と思える社会にならないといけない
- ・女性が出産、育児しながら働き続けられる社会でないと、子供が減るし、経済も衰退する
- ・男性の育児参加がまだまだ
- ・働く親のテレワークをもっと進めるべき

(地域で子育て)

- ・個の尊重が行き過ぎて、地域コミュニティが機能しなくなり、支え合う子育てが難しくなっている
- ・ひとり親を孤立させないことが重要
- ・子育て家庭が孤立しがちだからこそ、協力体制が整った地域コミュニティの形成が必要
- ・周囲のサポートで親の負担を減らすことが大切
- ・楽しい子育てには外部支援が必須。学校と地域の連携による子供と家族の孤立を防ぐ取組が重要
- ・子供の遊び声がやかましいという人は自分の子供のころを忘れてる
- ・子供を社会で育てる仕組みが必要
- ・親、子、孫が「スープの冷めない距離」に集まり住み、いつでも交流できる環境が必要
- ・日頃から多世代で交流する機会を増やすことが大事。地域でいろんな勉強会を開くとよい

(子供が育つ環境)

- ・虐待やいじめがなく、子供が伸び伸び安全に暮らせる社会であってほしい
- ・中学受験を経験したが、受験社会に閉塞感を感じる。今のような大学入試は本当に必要なのか
- ・子供が安心して外遊びができる環境づくりが大事
- ・それぞれの子供たちの個性を認めることが大切
- ・街の近くに里山・里海がある兵庫は子供が楽しく成長していける条件が整っている
- ・保育園と高齢者施設を併合し、お年寄りが子供たちとふれあう場をつくるとよい
- ・子供の学力だけでなく、生き抜く力と心身の健康をもっと考えなければいけない
- ・人を信用できない社会で、心豊かな人間が育つとは思えない
- ・子育てを親の視点からのみ見ているのが気になる。子供が楽しく育つ社会であることが重要

(その他)

- ・せっかくの子育て、楽しまなければもったいない
- ・保育園に子供を入れてまで働かなければちょっと余裕のある生活が送れない世の中だ
- ・多様化していると言われるが子育て中の身には狭窄化の社会で、育てにくさを感じる人が多い

第3位：11 活躍するシニア (179票)

～望む限り働き続けられる社会を～

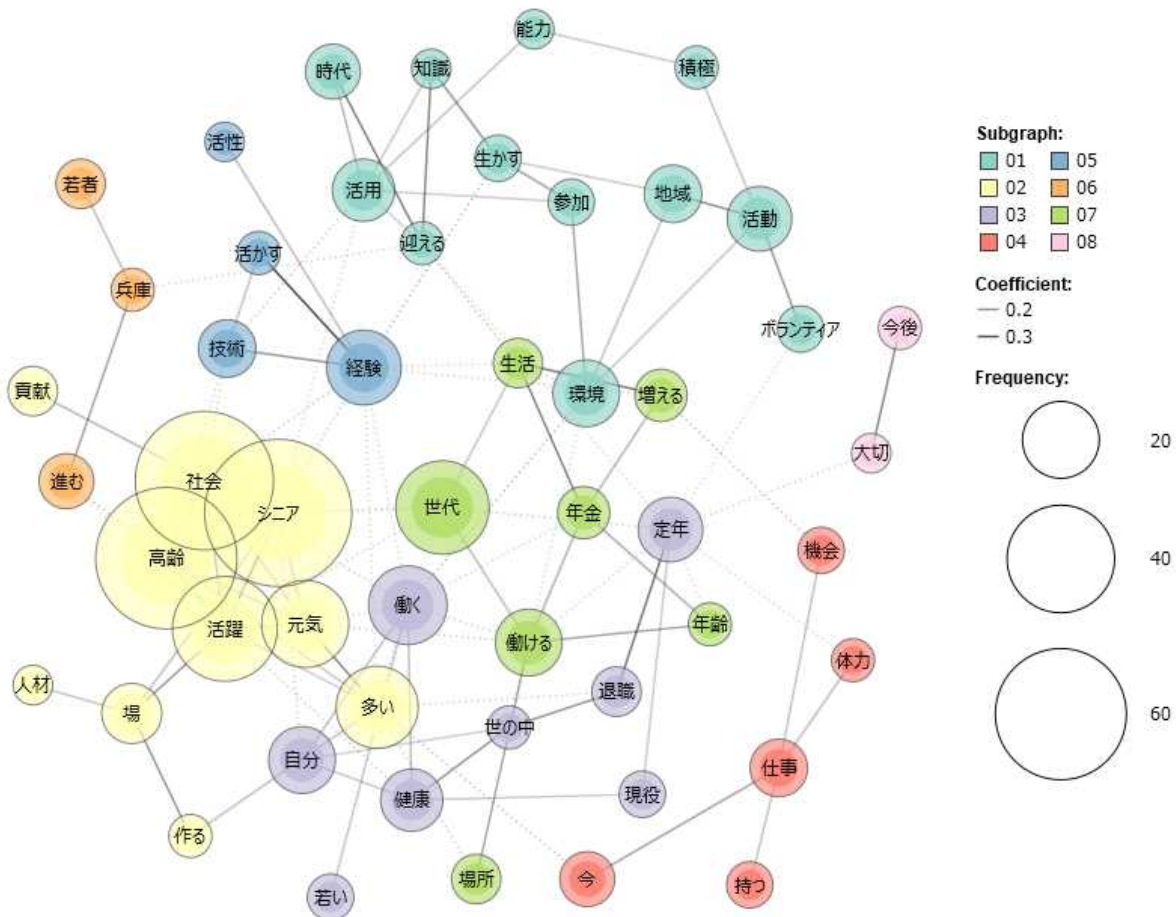
- ・重視すべき未来シナリオ第3位は「11 活躍するシニア」である。前述したように、年代が上がるほど支持が高まるシナリオであり、実人口に対して回答者の年齢構成が高齢層に偏っている（下表）ことから順位が押し上げられた面があることに留意する必要がある。

《回答者と兵庫県の実人口の年齢構成比較》

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上
回答者	1.7%	5.7%	14.4%	21.6%	24.5%	25.9%	6.2%
実人口	9.4%	10.6%	14.7%	13.1%	12.8%	13.3%	8.9%

- ・選んだ理由を見ると、頻出語は多い順に「シニア」「高齢」「社会」「活躍」「世代」「元気」「多い」「働く」「経験」「環境」等である。
- ・頻出語間の関係を見ると、出現回数の多い言葉（「シニア」「高齢」「社会」「活躍」「元気」等）同士の関連が強く、50代以上を中心に多くの人が共通してシニアがもっと活躍できる社会を望んでいる。
- ・なぜシニアの活躍が求められるのか。回答からは大きく3つの考えが読み取れる。第一に、時間を持って余している健康な高齢者が多いこと。第二に、生活のために歳をとっても働いて収入を得る必要がある人がいること。第三に、超高齢社会では働ける人は働かないと社会の維持が難しいことである。定年制の見直しを含め、望む限り働き続けることのできる社会づくりが強く求められていると言えよう。

順位	頻出語	出現回数
1	シニア	76
2	高齢	70
3	社会	67
4	活躍	38
5	世代	30
6	元気	26
7	多い	23
8	働く	21
9	経験	19
10	環境	15
11	自分	15
12	働ける	15
13	活動	14
14	定年	14
15	活用	13
16	健康	13
17	場	12
18	技術	11
19	仕事	11
20	地域	11



<主な回答>

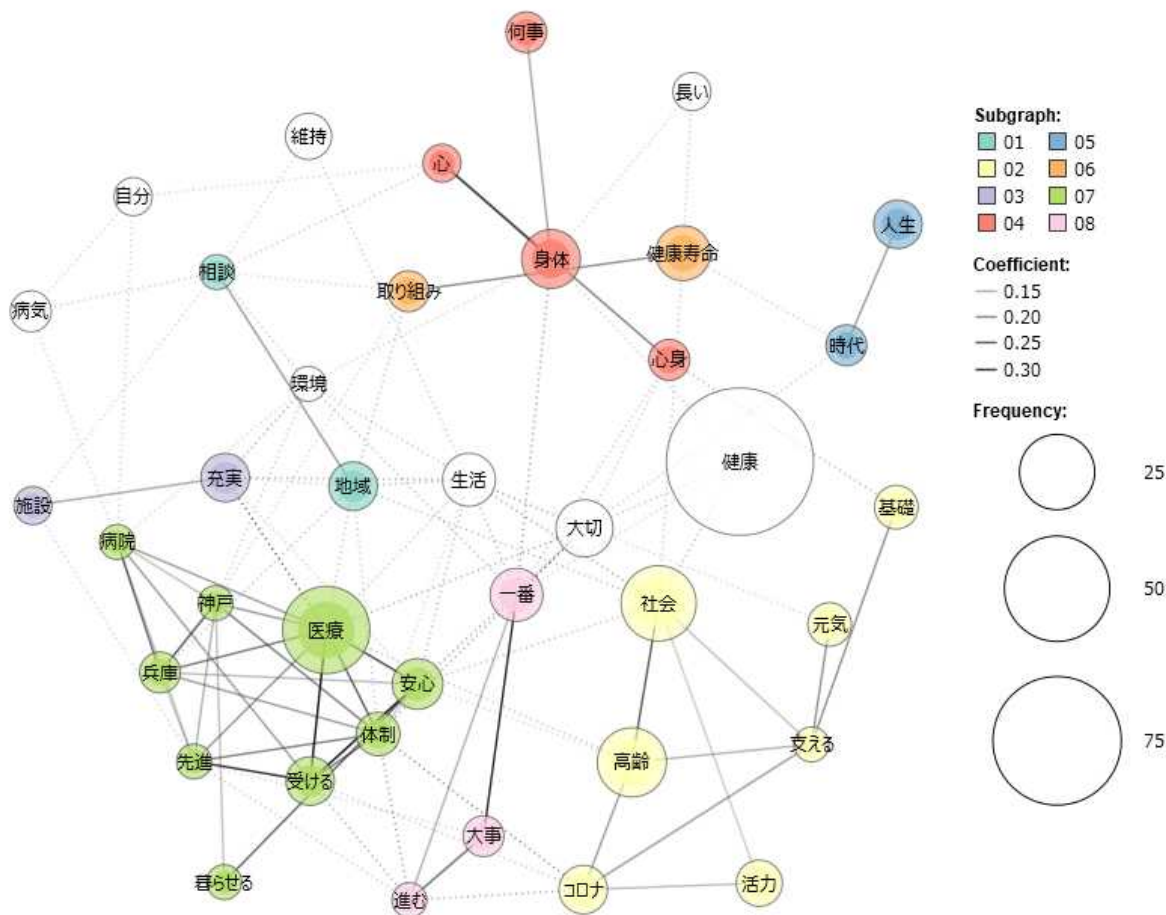
<p>(超高齢化)</p> <ul style="list-style-type: none">・増える一方のシニアをなおざりにしたビジョンはあり得ない・人生 100 年時代、元気なシニアは活用すべきだ・日本全体が高齢化社会に向かうので、シニアが活躍できる環境が整うことが望ましい・若い人の誘致に力が入っているが、年寄りの方が多いことから、活躍の場を積極的に作ってほしい・自分は健康面でも精神面でもまだまだ頑張れる。世の中の役に立ちたいシニアはたくさんいる・健康志向が高まっているので、社会はますます高齢化し、元気な高齢者が増えるだろう・時間を持て余しているシニアが多い・元気なのに社会参加していない高齢者が多い。認知症が進む原因を社会が作ってしまっている <p>(働く高齢者)</p> <ul style="list-style-type: none">・高齢者が働ける場所はまだまだ限られている。企業が高齢者にもっと門戸を開く必要がある・シニアをもっと現場に引っ張り出して、あらゆる分野で活動してもらいようにすべき・定年制をなくして働けるだけ働けるようにすべき・65 歳までは雇用し、以降は一年ごとに嘱託として雇用するシステムがあると良い・年金があてにならないので、長く働きたい・後期高齢者医療保険料や介護保険料が高いのに、働き口がなかなか見つからない・年金が減っても働く場があれば、老後破産や孤独死などが少しでも減ると思う・働かざるもの食うべからずの精神で頑張りたい・高齢者の中でもずば抜けた知識、体験、技能を持っている人には活躍の場を与えるべき・元気なシニアの有り余る体力、気力を社会に活かせたらと思う。ただ、お偉いさんの感じが抜けない人（特に男性）はそこを改めないといけない・腰掛的な再雇用ではなく、本当に能力のあるシニアの採用を積極的に進めるべき・女性同様、高齢者の雇用も目標設定してはどうか・活躍は大事だが、後進に道を譲ることも大切・後進に道を譲り、新しい活動に向かうべき	<p>(社会の持続)</p> <ul style="list-style-type: none">・このままでは労働力が不足し、税収も低下する。高齢者の活用が社会の維持に一層必要になる・シニアを有効に活用しないと社会が成り立たない・若い人の負担を少なくするためにも高齢者が働いて納税する必要がある・高齢者は働いて自立するべき。このままでは借金で国が破綻する <p>(地域での活躍)</p> <ul style="list-style-type: none">・高齢になってもできることはたくさんある・年代（60 代、70 代、80 代）で体力・気力に差があるので、いろんな活躍の場があることが大事・シニアの能力は教育関係に活用するのがよい・暇を持て余しているシニアが地域で子供たちをサポートしてくれれば親は安心して働きに行ける・まだまだ働けるシニアの方には子供たちの見守りなど地域の安全を守る仕事をしてほしい・農繁期に人手不足で苦勞する農家が多いので、農業・農村の活性化にシニアを活かすべき・災害などを想定して「老々共助」を推進するべき・世代間交流を意図的に作り上げる必要がある。今はむしろ世代間ギャップが拡大している <p>(生涯活躍の難しさ)</p> <ul style="list-style-type: none">・シニアに活躍してほしいが、受け身の人が多い・60 歳を超えると積み重ねた技術をほとんど活かせない社会になっている・60 歳で定年した後のビジョンが思いつかない・歳をとるにつれて自分が何で社会に貢献できるのか具体的にイメージできなくなってきた・充実した老後には打ち込んでできる何かが必要・高齢者も社会から必要とされる役割を果たしていけるよう勉学に励むべき・定年後に新たな社会生活を始める人がいる一方で、埋もれていく人もいる <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none">・それぞれの世代のスタイルに合った生活ができる環境があるのが、五国が入り混じる兵庫県の長所・定年後は地元でゆっくり暮らしたい。だが、仕事はなさそうだ
---	--

第4位：2 活力を支える健康 (172票)

～安心の医療に支えられた、健康で長生きできる社会に～

- ・重視すべき未来シナリオ第4位は「2 活力を支える健康」で3位「11 活躍するシニア」と同等の支持を集めた。健康は生涯活躍に不可欠で、選んだ理由からも、両者を一体的に捉える人が多いことが窺われる。
- ・選んだ理由を見ると、頻出語は多い順に「健康」「医療」「社会」「高齢」「身体」「大切」「健康寿命」「一番」「生活」「安心」等である。
- ・頻出語間の関係を見ると、出現回数が最多の「健康」が様々な文脈で満遍なく使われる中で、特に「健康寿命」という近年定着した言葉が「身体」との関連でよく用いられている。「健康でなければ必ずしも長寿が望ましいとは言えない」との声に象徴されるように、寝たきりや認知症にならずに老いることへの強い願望が読み取れる。
- ・また、「医療」「安心」「受ける」「体制」の関連が強い。どこに住んでいても安心して医療を受けることができる体制づくりへの県民の強い期待の表れと受け止めるべきだろう。医療に関しては、予防や健康増進にもっと力を入れるべきだとの声も多く聞かれた。
- ・「社会」と「高齢」の関連も強い。高齢者ほど健康リスクを抱えがちであることから、社会が高齢化するにつれ、ますます健康への関心は高まっていくだろう。やがて到来する人生100年時代が、不健康であることを許さないような不寛容な社会にならないことを願いたい。

順位	頻出語	出現回数
1	健康	99
2	医療	34
3	社会	25
4	高齢	21
5	身体	15
6	大切	14
7	健康寿命	13
8	一番	12
9	生活	12
10	安心	11
11	コロナ	10
12	受ける	10
13	充実	10
14	人生	10
15	地域	10
16	維持	9
17	活力	9
18	基礎	8
19	元気	8
20	体制	8



<主な回答>

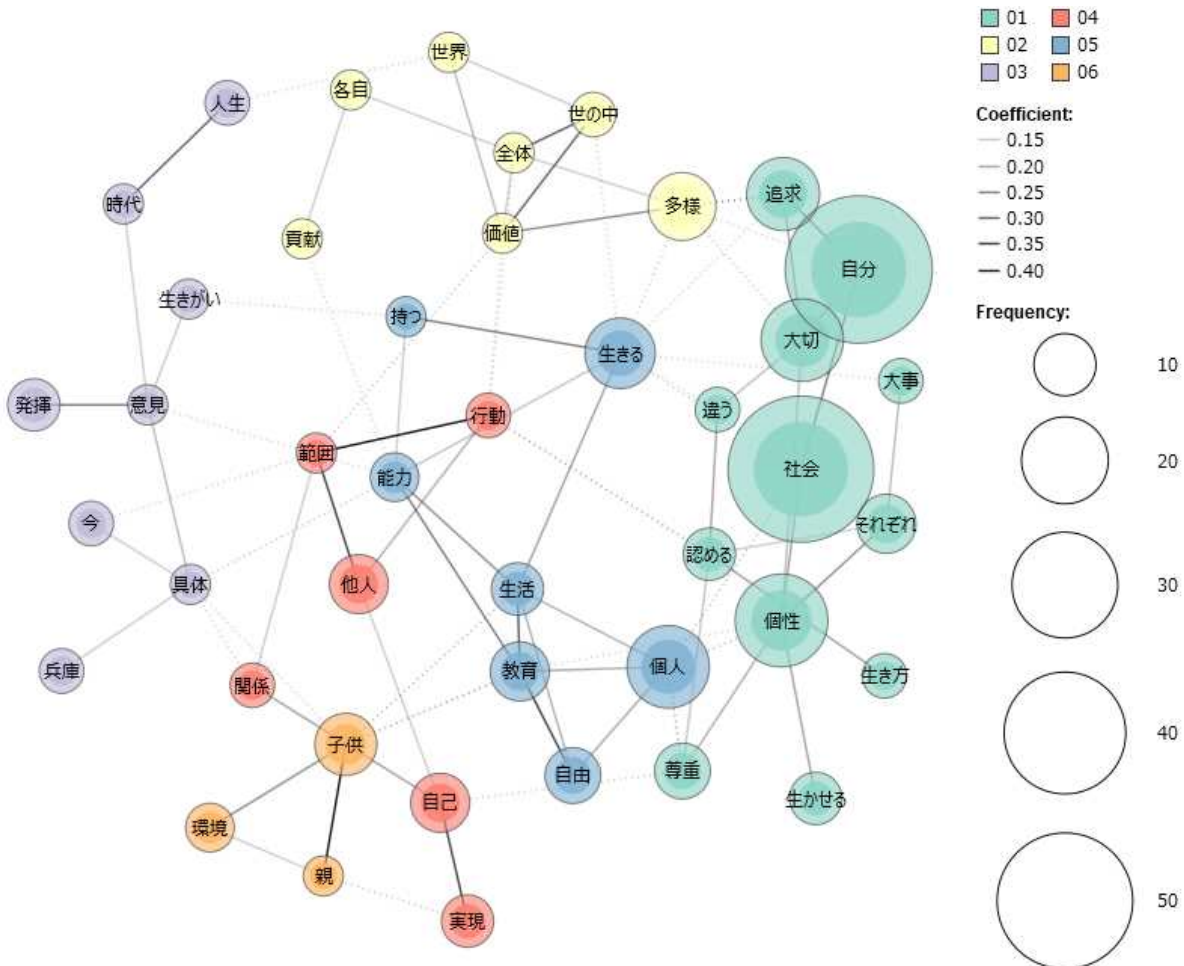
<p>(何より健康)</p> <ul style="list-style-type: none">・健康であるからこそ日常を豊かに過ごせるし、新たなことに挑戦できる・こころ豊かな生活には健康が第一だ・生きていく中で最も基礎的な条件である健康が満たされていれば、他のこともまずまず満たされている訳だから、健康を第一義に考えるべき・健康で長生きできることが一番大切・健康であれば、可能性が広がる。寿命の長くなる時代だからこそ、健康がとても大事・健康寿命を伸ばすことがすべてのビジョン実現のための基礎 <p>(健康であるために)</p> <ul style="list-style-type: none">・活力を生む食材とそれを使った栄養バランスの取れた食事が健康維持の基本・医療費、介護費用などより、もっと他に有効な税金の使い道があるのではないか・安全に徒歩や自転車で移動できるなど生活の中で健康増進ができる環境を整えてほしい・公園に健康器具を設置すること・病気になった人に対する手当はあるが、病気の予防や、身体を動かしたい人向けの施策が弱い・日頃の生活習慣の改善を身近に気軽に相談できる体制づくりを進めてほしい・市民がもっと手軽に利用できる運動施設を増やしてほしい。特にプールが少ない・子供が健康（心、身体）に育つことを重点に考えた学校教育の指針を作るべき・高齢者の医療費を抑えるために、治療だけでなく予防を重視した施策に重点を移していくべき・顔を見て話をしたり、お茶を飲みに行ったりすることが私にとっては健康への第一歩だと思う・特定健診のデータなどを基に今後どんな病気や不調が起こるかが予測できるようになってほしい・在宅でもできる趣味を拡大することが、自己免疫力向上と健康につながるのではないか・若者のスマホ・ゲーム依存など、心の健康づくりにも取り組んでほしい・身体の健康も大事だが、脳が健康なのが一番大事	<p>(医療)</p> <ul style="list-style-type: none">・兵庫県のどこに住んでいても、安心して医療を受けられる体制が必要・神戸の医療産業都市が県民生活に身近でない。かかりつけ医から地域の中核医療機関、さらに先進医療まで一貫して享受できる体制を作るべき・どの地域に住んでいても安心して医療が受けられるように、遠隔診療サービスの充実を望む・誰でもいつでもどこでも安心して先進医療を受けることができる必要がある・凶らずもこのコロナ禍で医療体制の脆弱さが明らかになったので、優先して対策を進めてほしい・受けられる医療に個人で格差があるのを減らすため、公的医療の拡充が望まれる・がんを克服する時代が早く来てほしい・どこに住んでいても予防から終末期まで切れ目のない医療サービスが受けられる必要がある <p>(高齢期の健康)</p> <ul style="list-style-type: none">・私たち高齢者の最大の関心事は「健康」だ・老齢で体力の衰えを感じている。健康が一番だ・子供たちが地元には帰ってこないだろうから、できるだけ夫婦二人共が健康でいることが大切・高齢になっても、若い方の負担にならないよう、元気に過ごしたい・孫子に迷惑を掛けず心身共に健康でありたい・寿命が長くなっても寝たきりでは意味がない・寝たきりにならない老後を目指したい・健康でなければ必ずしも長寿が望ましいとは思えないと思う・健康に人生を全うできるためには、どうすればいいのか、その指針を求めたい <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none">・神戸の医療産業都市とスーパーコンピュータ「富岳」を中心にした健康医療産業の発展と合わせて生涯安心して暮らせる都市の構築を希望したい・世界に誇る医療産業都市があるのに、なぜもっと早くワクチンや治療薬ができないのか・健康を科学することで、長寿社会を支える新たな産業が生まれるはず
--	--

第5位：1 自分らしさを追求できる社会 (150票)

～もっと多様な生き方を選択できる社会を～

- ・重視すべき未来シナリオ第5位は「1自分らしさを追求できる社会」である。選んだ理由を見ると、頻出語は多い順に「自分」「社会」「個性」「個人」「大切」「追求」「生きる」「多様」「子供」等である。
- ・頻出語間の関係を見ると、まず「自分」「社会」「個性」「大切」「追求」「それぞれ」「尊重」の関連が強い。自分らしさを追求できる人生が一番幸せだ、それぞれの個性が大切にされる社会であることが一番大事だ、といった意見が多く寄せられている。
- ・その反面、「固定観念」「同調圧力」「古いしきたり」「限られた常識」など、自分らしきの阻害要因に触れる意見も多かった。一人ひとりの多様な生き方を許容する懐の深い社会をめざす必要がある。
- ・また、「個人」「生きる」「教育」「自由」「生活」「能力」の関連も強い。個人の自由な発想や一人ひとりの能力をもっと大事にすべきだとの意見である。そのためには教育を変えないといけないとの意見も聞かれた。人は一人ひとり異なり、もっと多様な生き方があってよいという考え方を学校教育の実践の中で具体化していく必要がある。
- ・これとの関連で「変化の大きい時代なので様々なタイミングで生き方を見直す機会があればと思う」など、いまだに根強いサラリーマン社会モデルから脱却する必要性を感じさせる意見があった。

順位	頻出語	出現回数
1	自分	59
2	社会	58
3	個性	23
4	個人	18
5	大切	18
6	追求	14
7	生きる	13
8	多様	12
9	子供	10
10	それぞれ	9
11	教育	9
12	自己	9
13	他人	9
14	自由	8
15	尊重	8
16	実現	7
17	生かせる	7
18	生活	7
19	認める	7
20	発揮	7



<主な回答>

(自己実現)

- ・個が充実してこそ、他人にも優しくできる
- ・小さな満足感の積み重ねがあれば、自分を大切に生きていける
- ・人に惑わされず、己を信じて生きていける社会になればよい
- ・せっかく頂いた命なので、自分のやりたいことを追求して、その過程を楽しみたい
- ・生きていく上で最も大事なものは自分の能力を活かして生活費を稼ぐことだ
- ・いくつになっても自分のキャリアを生かせる社会であってほしい
- ・やはり自分の個性を発揮できる人生が一番幸せなのではないか
- ・何が自分らしさか分かっている人は実は少ないのではないか。自分らしさを追求していくには多種多様な選択肢が社会にあることが必要条件

(もっと自由な社会に)

- ・先日同棲同士の婚姻を認めない処分が違憲とされたように、様々な場面で個人の多様な生き方を尊重できる社会になればよいと思う
- ・様々な固定観念から解放される必要がある
- ・今現実に自分らしく生きられないことに苦痛を感じている
- ・あらゆる面においてルールが優先されすぎているような気がする。古いしきたりはなくすべき
- ・同調圧力に流されてばかりの社会のままでは世界に置いていかれる
- ・自由のようであるが現実には数々の制約があり、限られた職業、限られた常識に支配されている
- ・30年後には、誰も考えてもいないような社会になっているだろう。それは集団的、画一的な社会とは180度反対の社会だと思いたい
- ・自分らしさを発揮しにくい要因として、様々な場面で黙らせるパワーが存在している。
- ・良いところは継承し、違うところは変えていく勇気を持って生きられる世の中になってほしい
- ・男女共同参画が叫ばれて久しいが、本当にそうなるためには思い切った改革が必要

(違いを認める)

- ・自分と同じように他者の自己実現も尊重すること
- ・違いを認め合うことが、一人ひとりが暮らしやすい社会づくりにつながる
- ・ジェンダーフリーやユニバーサルも含めて、それぞれの個性を包み込む地域になってほしい
- ・個々の個性を生かせたら楽しい社会になりそう

(個性を伸ばす教育)

- ・学校が大事なのに不登校、いじめなど問題が多い
- ・個性を尊重し自由な発想を大切にする社会になってほしい。そのためには教育を変えないといけない。詰め込み式ではなく思考する教育をする
- ・子供が自分らしく自分の夢を追求していくには、親以外の周囲の支えが必要。学校と連携してそういう環境を整える必要がある
- ・きっちりと自己主張ができる人材が育ってほしい

(大人の学び直し)

- ・変化の大きい時代なので、人生の様々なタイミングで職業、住まいをはじめ、生き方を見直す機会があればよいと思う
- ・コロナ禍で生き方を考え直す人が増えたと思う。ルールから降りることは挫折ではなく、いつでも学び直し、新たな可能性を見出す生き方はできる
- ・コロナ禍で皆が自分の存在を問い、その答えを探している。何のために日々を過ごしているのかを問い直し、自分らしさを発揮できればと思う
- ・自分時間が拡大しても、何をしたらよいのかが分からない人もいる

(その他)

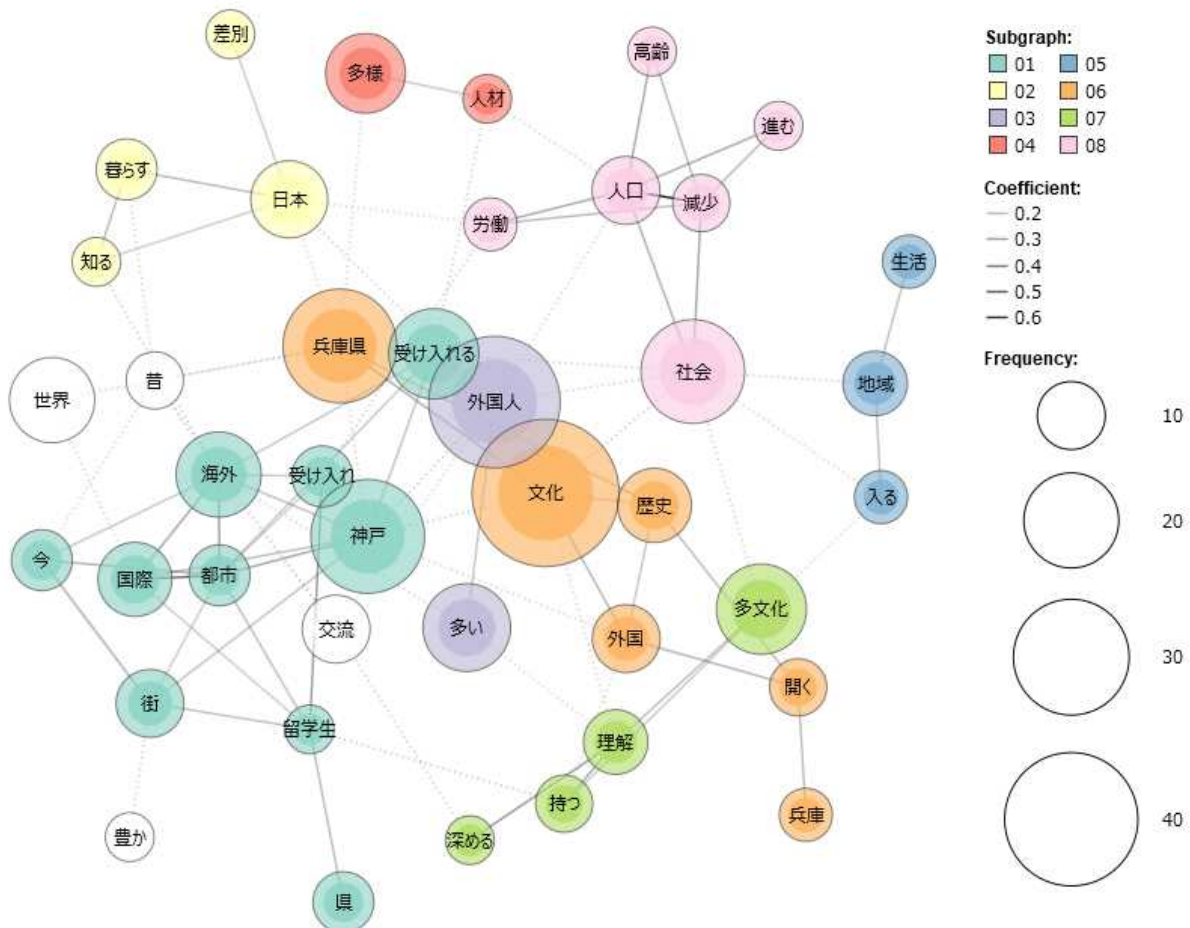
- ・身勝手はいけないがその逆でも生きていけない
- ・自分らしさを求めるとしても、周囲の人間関係の中で許容される範囲であるかを確認する必要がある。単なる自己主張、我がままではいけない
- ・個性を失くせばアイデアは生まれず、個性を出しすぎたら常識を失くす
- ・ベーシックインカムのある社会をめざすべき
- ・自由な時間を生み出すためAIにできることはAIに任せるべき
- ・ここには他のシナリオのすべてが潜在している

第6位：8 多文化が入り混じる兵庫（134票）

～外国人が安心して暮らせる地域を～

- ・重視すべき未来シナリオ第6位は「8 多文化が入り混じる兵庫」である。選んだ理由を見ると、頻出語は多い順に「文化」「外国人」「神戸」「兵庫県」「社会」「受け入れる」「多文化」「多い」「海外」等である。
- ・頻出語間の関係を見ると、「文化」「兵庫県」「歴史」「外国」「開く」の関連が強く、また、「外国人」「多い」や、「神戸」「受け入れる」「海外」「国際」「街」の関連も強い。
- ・開港以降、神戸の街を中心に多くの外国人を受け入れ、いち早く外国の文化を取り込んできた歴史を持つ強みを活かして更に多様な文化が入り混じる地域をめざすのが兵庫らしいとの意見である。
- ・また、「人口」「減少」「社会」「労働」の関連も読み取れる。実際問題として人口減少に対応するためには外国人の労働力に頼らざるをえず、そのためにも多文化理解を促進し、外国人と共生する地域社会を築いていく必要があるとの意見である。
- ・一方で、保守的で他者を許容しない雰囲気が残っている、外国人の受け入れ環境がまだまだ脆弱だとの意見もあった。この点については、多文化共生社会の実現も、結局は人それぞれに生き方、考え方が異なるという、ごく当たり前のことを大事にする「一人ひとりの個性を尊重する社会」の実現にかかっているとの的を射た指摘があった。

順位	頻出語	出現回数
1	文化	49
2	外国人	39
3	神戸	29
4	兵庫県	29
5	社会	24
6	受け入れる	18
7	多文化	18
8	多い	17
9	海外	16
10	世界	16
11	多様	14
12	日本	13
13	国際	12
14	歴史	12
15	外国	10
16	街	10
17	交流	10
18	人口	10
19	地域	9
20	理解	9



<主な回答>

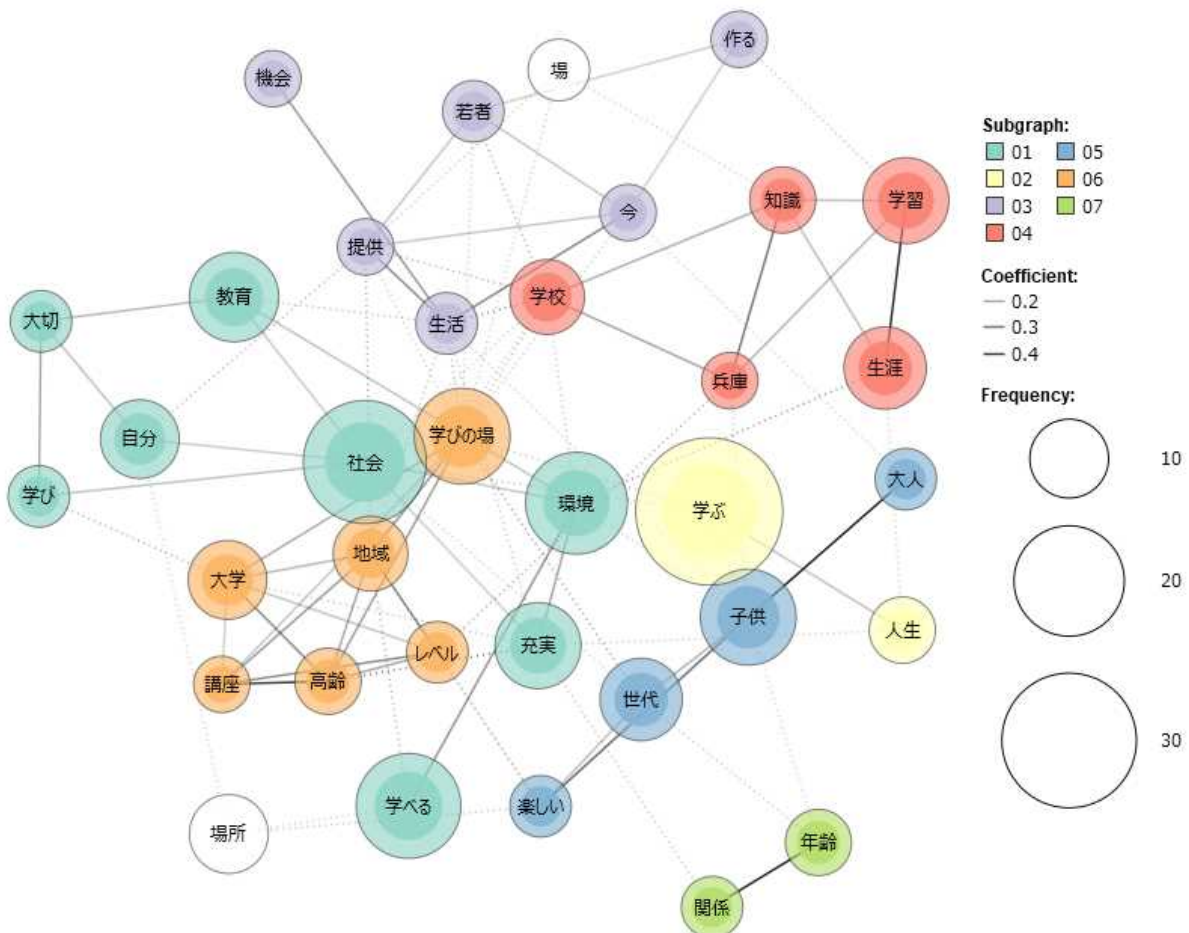
<p>(兵庫の強み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際色豊かな神戸の特徴をもっと活かすべき ・神戸を擁する国際性のある兵庫だからこそ、外国人の受け入れを進めてほしい ・神戸に引っ越してきて、外国人も暮らしやすい、素敵な街だと知った。その良さを伸ばしてほしい ・父親、夫が外国人。多様な文化背景を持つ友人が県内で暮らしている。私の子供も、私が経験してきた多文化を理解できる環境で育ててほしい ・地域の多様性という兵庫の特性を生かして、さらにいろんな文化が入り混じるようになればよい ・文化といっても外国文化ばかりではない。もっと地域文化の交流を促進してはどうか <p>(開放性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・兵庫、神戸ともに開放的と言われながら、実際は保守的で他者を許容しない雰囲気を持っている ・村社会から変わっておらず、県外からの移住者がコミュニティに入って行き難い地域がまだある ・外国人を受け入れる環境がまだまだ脆弱 ・十人十色、人それぞれに生き方、考え方が異なるという、ごく当たり前のことを大事にする、個を尊重する社会の実現こそが重要 ・ネット社会で海外との接触は多くなるばかり。文化・習慣・言語・食など多文化が入り混じっているのがノーマルという環境づくりが大切 ・日本の生活、習慣を押しつけるのではなく、違いを尊重しあえる社会になってほしい <p>(異文化を知る意味)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家の繁栄は異文化との交流、交易から始まる ・新産業の創出、製造業の活性化のためにも、日本人と外国人が普通に共存する社会が必要 ・井の中の蛙ではいけない。様々な文化に触れることが大切 ・多文化に日常的に触れることで、偏った考えを持たなくなる社会を築ける。そのためにも外国企業の誘致や留学生を増やす施策が必要 ・大きな学びや経験から新しい産業が生まれる ・グローバルな環境があることで子供たちに広い視野を与えることができる 	<p>(外国人県民)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人県民は増加の一途だろうから、二か国語、三か国語が当たり前の世の中にしていけないと ・神戸大学等に留学生を集めてその人々がそのまま定住できるような仕組みを作るべき ・海外留学生をもっと受け入れるべし。但し、国に偏りがないようにすることが大切 ・農林水産業は外国人がいないと成り立たない ・移民を受け入れない限り、人口減少は防げない ・人口減少が激しいので、多文化を軸に社会を構成しないと前に進めない ・外国人労働者の処遇を良くしないと、誰も来てくれなくなる。現行制度の改善を望む ・外国人労働者の長期滞在を緩和していくべき ・外国人と彼らの家族、特に子供たちが母国の文化を大切にしながらも異文化（日本）と共存できる社会システムの構築を ・外国人が増えているが、まったく交流がない ・外国人は外国人で集まって過している。多文化を受け入れる体制が必要 <p>(学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供が帰国子女だが、小学校で転入した際に受け入れが整っていなかった ・身近な学校教育での受け入れを進めるべき ・小中学校と外国人学校との交流を進めるべき ・外国人児童に対する就学援助の充実が必要 <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神戸空港が国際空港となることを願う ・少数者に対する差別や迫害の歴史を学び、伝えていく努力を続けなければならない ・想像力豊かで他者の立場に立って考えられる子供たちが育つ教育を ・英語圏だけでなく中国、東南アジアとの交流も均等に広げるべき ・シンガポールに追いつけ追い越せ ・外国人の暮らしやすさの実現に力を入れたら、外国人でない人もその恩恵を受けることができる ・多様な国の人と交流し、文化を学べる場を増やし外国料理のレストランの誘致も進めてほしい
---	--

第7位：3 あふれる学びの場 (122票)

～大人になっても学び続けるのが当たり前の社会に～

- ・重視すべき未来シナリオ第7位は「3 あふれる学びの場」である。選んだ理由を見ると、頻出語は多い順に「学ぶ」「社会」「学べる」「環境」「学びの場」「子供」「教育」「学習」「充実」「世代」等である。
- ・頻出語間の関係を見ると、まず「学ぶ」「人生」の関連が強く、学びが人生を豊かにするといった趣旨の回答が多い。個々の回答を見ると、一般論として学ぶことの意味を前向きに捉える人がいる一方で、変化の激しい時代なので学ばなければ置いていかれるといった焦りのようなものを感じている人が多いことも窺われる。
- ・また、「社会」「学べる」「環境」「教育」「充実」の関連も強い。何歳になっても学べる環境の充実を求める意見である。「学びの場」「大学」「地域」「高齢」の関連も趣旨としては同じ回答群である。
- ・変化の激しい時代からこそ、また、伸びる寿命を豊かに生き切るためにも、生涯を通じた学びの重要性は高まる一方である。その要請に応えるべく社会全体でリカレント教育の環境を整えていく必要がある。
- ・一方で、環境整備を求める声の多さからは、何かしら場が与えられなければ学べないという消極的な姿勢も窺える。大学など門戸を開いている学びの場はすでにあるわけで、新たな学びへの一歩を踏み出すかどうかは、結局自分次第との自覚を持つべきであろう。

順位	頻出語	出現回数
1	学ぶ	36
2	社会	25
3	学べる	18
4	環境	17
5	学びの場	15
6	子供	15
7	教育	13
8	学習	12
9	充実	12
10	世代	11
11	生涯	11
12	自分	10
13	場所	10
14	大学	10
15	学校	9
16	地域	9
17	高齢	7
18	人生	7
19	知識	7
20	年齢	7



<主な回答>

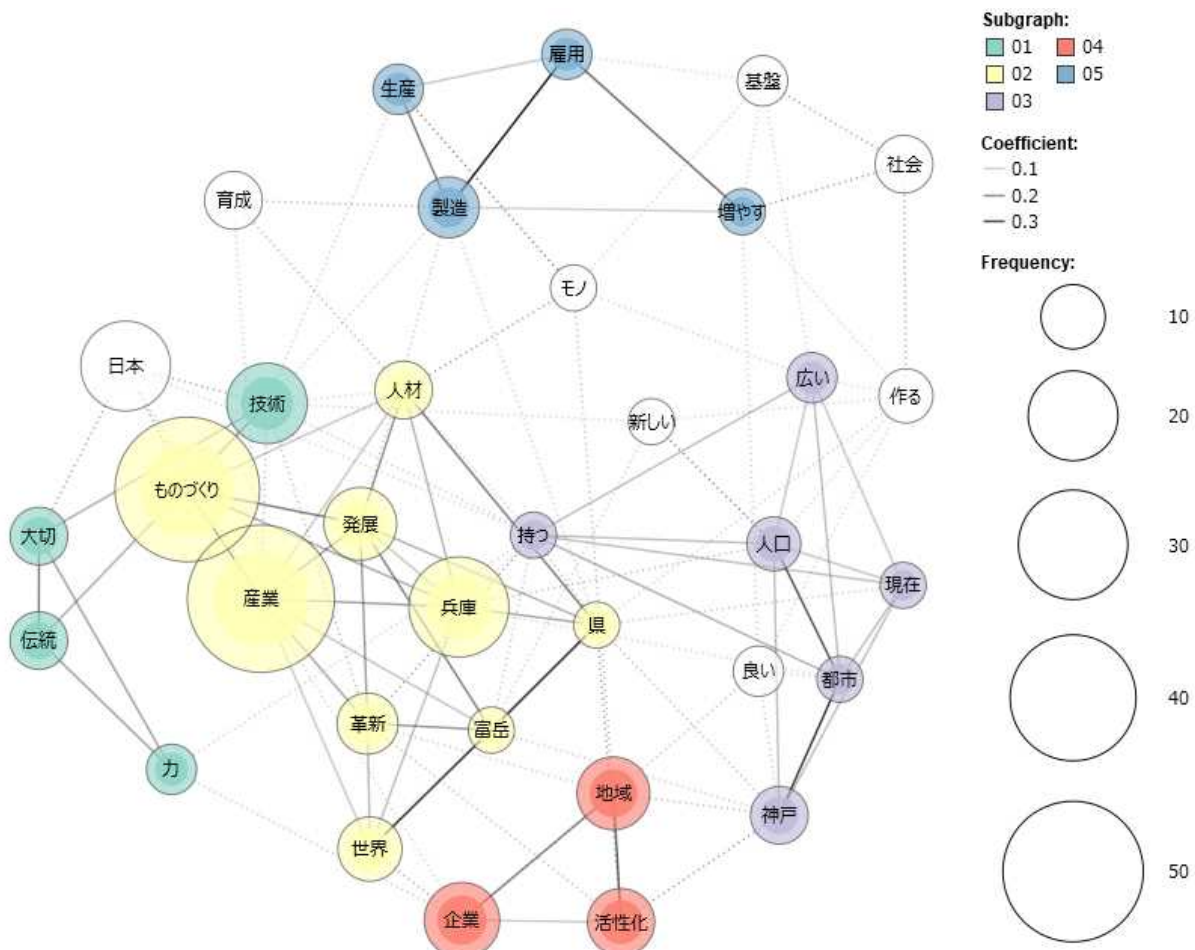
<p>(学ぶ意味)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いくつになっても学びたいと常々感じる ・学びは年齢に関係なく、活力を生み出す基 ・どんな時代でも学ぶということが人間の発展と幸福につながる ・終活期こそ、人生をまとめる意味で学びが大切 ・何歳でも何かを学んで得ることがある ・知らないことを知ろうとする努力に意味がある ・知的好奇心を埋めるのは最も人間的な生きがい ・生涯にわたって学び続けることで、より良い充実した人生を過ごすことができる ・目的が何であれいくつになっても学べる機会を持ち続けることが人として重要 ・親が勉強する姿勢は子供にもよい刺激になる ・新しい発見は、何歳になっても続く。新しいことに遭遇すると心が踊る <p>(教育)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会のやるべきことの第一歩は人材育成。特に子供の良心を引き出すこと、行動に表すことの支援ができていない。 ・子供たちが無料で遊べる場所が少なすぎる ・未来ある子供たちの教育の充実が優先されるべき ・人材が育てば、自ずと他の項目も充実したものになっていくと考える ・学力向上は、経済、治安の基本 ・教育を重視すると地域は活性化する。兵庫の教育は普通レベル。もう少しレベルアップできないか ・自然の中で心穏やかに学べる教育を ・地域や学校による格差があるのをどうするか <p>(学び直し)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識の陳腐化が以前より速くなっている。変化に適応するために学び続ける必要がある ・AIにはない能力を伸ばすために常に学びが必要 ・いろんな産業を生み出すための人材育成が大切 ・獲得した能力を認証する仕組みを整えるべき ・大人になっても、他業種に興味を持つことで事業拡大など社会貢献ができる ・何かを学びたくても、社会人になってしまうと、相当本人が覚悟して取り組まないと実現しない 	<p>(学ぶ場)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びたい人が学べる場所、環境が整っている社会であってほしい ・高齢者の増加に合わせて高齢者の学びの場を充実させる必要がある ・学びの場があれば、人生が豊かになると思う。人との交流、新たな気付きがあると思う。 ・喫緊の課題は図書館を質・量共に充実させること ・図書館、区民会館などでもっと民間人を活用したプログラムを組んではどうか ・社会状況の変動に合わせて学びの更新を低価格で実践できる市民大学的な場がほしい ・個々の興味特性に合わせたサポートが必要 ・学びの場があることで、人々の活躍の場が広がる ・先導してくれる先達と出会える場がほしい ・公立高校を開放して、いろんな講座を開催してほしい ・学びは、学校教育に止まらず、大人になっても必要。人々が自発的に学ぶ環境があれば、老若男女を問わず啓発的になり、社会が良い方向へ向かう ・生涯学習環境の充実は、32「人に投資する社会」33「開かれた学校」との相乗効果で、社会の活力を高める役割を果たす ・高齢者の学びの場を充実させてほしい。簡単すぎず、難しすぎず、中間レベルのものがあればよい ・歳をとればとるほどに、気楽に学べる場所が近くにあればありがたい。認知症の予防にも役立つ ・年齢、学歴、収入を問わず平等に学べる場が必要。それは人々の居場所を作ることにもなる ・子供から大人まで財力で差が出ない学習環境を ・学校を卒業すると学ぶ場がなくなる ・私が住んでる地域には大学がない ・年齢問わずオンラインで学べるようにすべき ・シニア世代のための簡単なIT教室を広げるべき ・中途半端に生涯学習事業をやるよりも、受講料や通学費を補助するなど大学の利用を促進すべき ・豊岡の芸大開設のような施策を進めてほしい ・放送大学のサテライトを但馬や淡路にも設置し、全県で高度な知識を得られるようにすべき ・世界の人が集まる国際的な大学がほしい
---	--

第7位：6 ものづくり産業の革新 (122票)

～ものづくり産業の新しい形を～

- ・「6 ものづくり産業の革新」も前述の「3 あふれる学びの場」と並んで重視すべき未来シナリオの第7位を占める。
- ・選んだ理由を見ると、頻出語は多い順に「産業」「ものづくり」「兵庫」「日本」「技術」「企業」「地域」「発展」「活性化」「世界」等である。
- ・頻出語間の関係を見ると、まず「ものづくり」「産業」「兵庫」「世界」「発展」の関連が強く、ものづくりが兵庫の産業の特色として広く認知されており、その発展が強く期待されていることが窺える。その一方で「既存の製造業のみに頼ってでは県の産業の発展は期待できない」「ものづくりをAI等を駆使した革新的な産業に発展させたい」等の意見に見られるように、ものづくり産業の革新が求められている。
- ・また、「企業」「地域」「活性化」の関連が強く、ものづくり企業、特に中小企業の活躍が地域活性化の鍵を握るとの意見も多く聞かれた。後継者の育成、技術の継承、経営体質の改善など中小企業の課題を指摘する声もある。ものづくり産業の革新は、とりもなおさずその主力となる中小企業の経営革新を求める声と受け止めるべきであろう。
- ・ハードからソフトへ、モノに依存する産業からの脱却、経済の非物質化といった時代潮流が強まる中で、ものづくり産業をどう進化させていくか。兵庫のみならず日本全体の大きな課題である。

順位	頻出語	出現回数
1	産業	55
2	ものづくり	53
3	兵庫	25
4	日本	20
5	技術	16
6	企業	14
7	地域	13
8	発展	13
9	活性化	11
10	世界	10
11	革新	9
12	製造	9
13	育成	8
14	社会	8
15	神戸	8
16	人材	8
17	大切	8
18	伝統	8
19	作る	7
20	人口	7



<主な回答>

(ものづくり産業の重要性)

- ・資源の少ない日本は、ものづくりで稼ぐしかない
- ・次世代のテクノロジーはソフト中心になるだろうが、やはりものづくりが元気でないと全体の歯車が回っていかないと思う
- ・ものづくりが発展すると、人材もモノも集まる。その派生効果で様々な文化や教育も発展する
- ・都市の活気にはものづくりが欠かせない。ファッション都市の再興と合わせて計画すべき
- ・ものづくりは創造性を高める。そこから芸術性も生まれて更に幅の広いものづくりにつながる
- ・子育てや介護などでは経済活力を生み出せない
- ・ICTの進化もベースにもものづくりがあってこそ
- ・ものづくり産業の発展により、人が集まり、若年者の人口も増えていく
- ・ものづくりは、地域に根差した雇用を生むため、製造業が発展する仕組みづくりが必要
- ・ものづくりはすそ野が広く、多くの産業を支え得る。結果として人が集まり、社会が成長する

(ものづくり産業の衰退)

- ・日本の財産であるものづくり技術が衰退している
- ・生産拠点を海外へ移し、商品の価格は安くなったが、コロナ騒動で製造業の衰退が著しいことがわかった。マスクが不足しても生産できない
- ・製造業の海外移転により電気自動車製造などの高付加価値生産技術の空洞化が進んでおり、雇用や収入の減少が進んでいる
- ・既存の製造業のみに頼ってはいは県の産業の発展は大きく期待できない
- ・バイオ、医療、IT、ロボット、新エネルギー等21世紀型産業の誘致を図っていく必要がある
- ・新産業を誘致する必要がある。医療産業を充実させてほしい
- ・重工業が多い。若い人が働ける新しい産業を作らないと人口減少は止まらない
- ・様々な企業の力を更に引き出すことによって、地域の活性化と価値の創出につなげる必要がある
- ・中小企業の後継者の育成と体質改善が必要
- ・経済の基幹であるものづくりの後継者育成が急務

(イノベーションの必要性)

- ・ハードからソフトへ、形あるモノに依存する産業からの脱却が必要
- ・ものづくりをAI等を駆使した革新的な産業に発展させたい
- ・単なる物の生産ではなく、文化、科学技術などを含めたものづくりが基本にあるべき
- ・異業種との交流からアイデアが生まれる
- ・アナログ的な技能の継承・拡充をベースに、常に新しいイノベーションに取り組む必要がある
- ・既存の産業も大切だが、中国などグローバルでの競争力を意識し、ものづくり体制の再構築が必要
- ・海外で競争力の高い企業を創出することが大事
- ・今以上の産官学の協力が必要
- ・経験者であるシニアの力を借りて発展すべし
- ・地域産業の活性化のために技術革新が必要だし、それに伴う起業のバックアップ体制も必要
- ・アイデアを形にする機会を増やす。職人と一般人の交流を増やして良いモノ、使いたいモノをどんどん作っていきける社会になってほしい
- ・地方に予算を投入するより、都市に集中投下したほうが活性化する

(伝統産業)

- ・デジタルコンテンツ産業だけでなく伝統工芸の継承・継続に力を入れてほしい
- ・伝統工芸・技術を次の世に伝えていくことは、今を生きる我々の責務
- ・伝統産業に現代の要素を取り入れて革新すべき
- ・せっかくの技術の価値に当人達も気づいておらず、もったいないことがある

(人材育成)

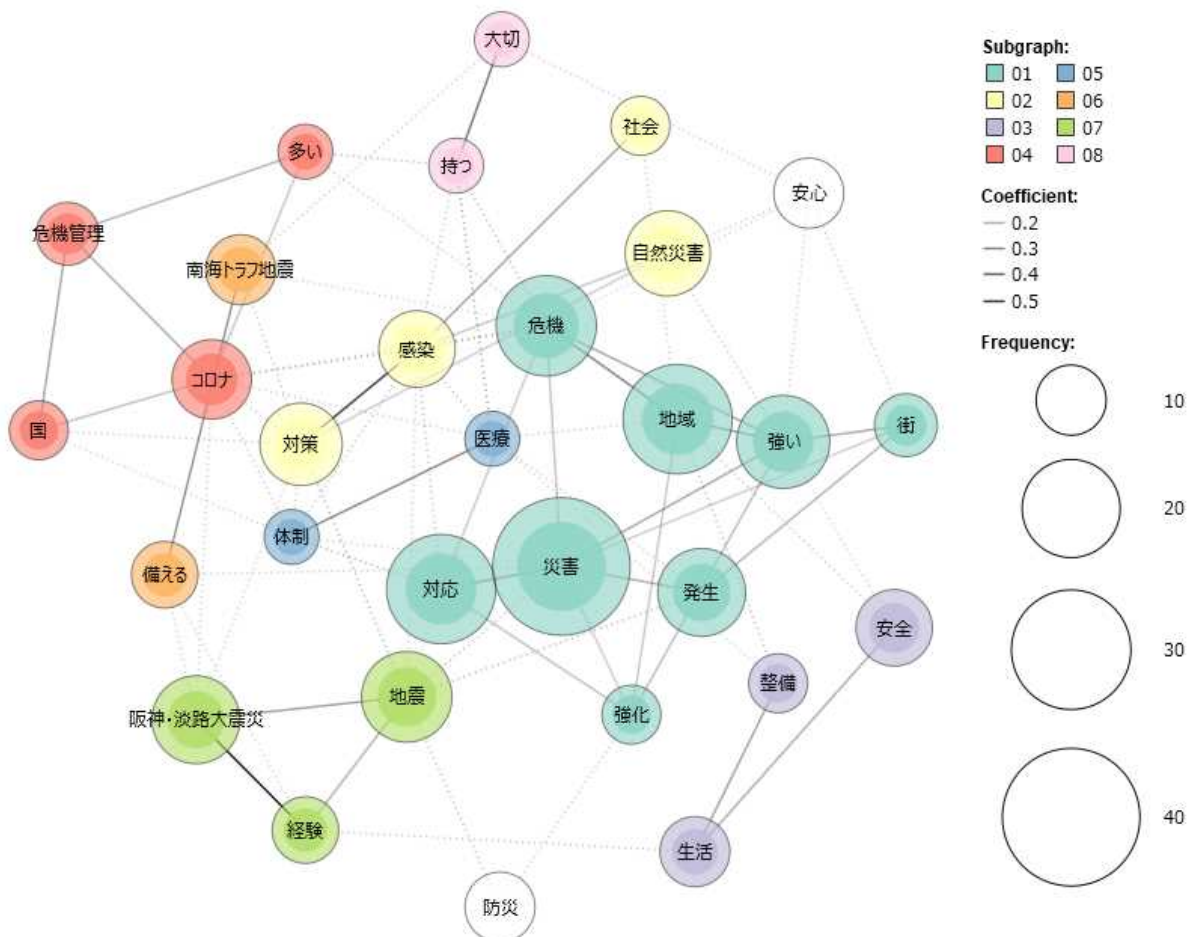
- ・日本の資源は人材であり、その人の技術なので、そこを深めていくことが大切
- ・ものづくりの人材を育てるために教育機関の拡充を図る必要がある
- ・後継者を絶やさぬため、ものづくりの楽しさや技術の凄さを子供の頃から身近に感じてほしい
- ・大学が多すぎる。もっと専門学校などで、ものづくりの人材を育成しないと将来が危うい

第9位：37 危機に強い地域（118票）

～コロナ禍の経験も活かして、いかなる災害にも強い地域を～

- ・重視すべき未来シナリオ第9位は「37 危機に強い地域」である。
- ・選んだ理由を見ると、頻出語は多い順に「災害」「対応」「地域」「危機」「強い」「地震」「阪神・淡路大震災」「発生」等である。
- ・頻出語間の関係を見ると、まず「災害」「対応」「地域」「危機」「強い」「発生」の関連が強く、また、「阪神・淡路大震災」「地震」「経験」の関連が強い。安全は、あらゆる生活、産業の基盤であり、災害対応力のある危機に強い地域であることが最も重要だと考える人が多い。阪神・淡路大震災という未曾有の災害の被災地だからこそ、その経験を活かして、いつ災害が起ころうとも対応できる危機に強い地域をめざすべきだとの声も聞かれた。
- ・「コロナ」「危機管理」の関連も強く、コロナ禍で国、自治体の危機管理能力向上の必要性を強く感じたとの声が寄せられている。
- ・また、「南海トラフ地震」「備える」の関連も強い。多くの県民が「南海トラフ地震」の発生確率が高いことを認識し、その備えを急ぐ必要があると考えている。
- ・危機に強い地域の要件として、ハード対策だけでなく、災害を想定した医療・介護の体制づくりや孤独への対応など、弱者の視点に立ったソフト対策の重要性を述べる意見もあった。

順位	頻出語	出現回数
1	災害	40
2	対応	25
3	地域	25
4	危機	21
5	強い	18
6	地震	17
7	阪神・淡路大震災	16
8	発生	16
9	自然災害	15
10	対策	14
11	コロナ	13
12	安全	12
13	感染	12
14	安心	10
15	生活	10
16	南海トラフ地震	10
17	防災	10
18	経験	9
19	備える	9
20	街	8
20	危機管理	8



<主な回答>

(安全が基本)

- ・安全は住みたくなる街の基本
- ・あらゆる生活、産業の基盤は安全な地域であること。仕事があり、豊かでなくても普通の生活ができる地域ありがたい
- ・高齢化社会になり一層強靱な、危機に強い地域にならなくてはならないと思う

(危機管理)

- ・コロナ禍で危機に弱いイメージになってしまった
- ・コロナ禍で国、自治体の危機管理能力に疑問を抱き、その不安が政治への不信、不満につながった
- ・インフラの強靱化は、投下する資源に対する効果に疑問を感じる。社会としての危機管理対策を日頃から練って準備しておくことが重要
- ・どのような危機にも対応できる危機管理体制の整備が急務
- ・危機に陥ってから考えるのではなく、常に更新していくシステムを作れないか
- ・組織の若返りと女性幹部の登用が必要
- ・想定すべき「災害」には、「戦災」も含まれる
- ・新型ウイルスはまた必ず発生する。今回の反省を踏まえて、万全の備えができるとよい
- ・多くの人が自分勝手に動き、感染を広げている。強い規制が必要だ
- ・今回、行政の対応の遅れが目立った。国の指示待ちではなく、県民の保護を優先して県独自の方針で進め、国の方針が出た段階で再調整すればよい

(防災対策)

- ・民間企業やNPOができそうなことはそれらに任せて、公共機関は防災に力を入れるべき
- ・社会インフラの整備をしっかりと進めて頂きたい
- ・南海トラフ地震が数年以内に発生することを前提に、対策が立案実行されていることが必要
- ・地震発生時のBCPの立案と、被災者が快適に生活できる場所・設備の確保を急ぐべき
- ・非常時の備蓄の拡充、訓練の実施、シェルターの設置などが必要
- ・今回、余裕のある医療供給体制や医療器具の整備の必要性を痛感

(まちづくり)

- ・阪神・淡路大震災の反省に立ち、特に弱い人の立場から安心して住める都市作りを期待している
- ・災害で多くの尊い命が失われる悲しみ、復興までに要する途方もない時間と労力とお金が可能な限り少なく済む街づくりを目指してほしい
- ・沿岸部の工業地帯や住宅密集地域をどうするのかに注目したい
- ・過疎地域を集約し、人はより安全な場所に居住するようにすべき
- ・空き家を更地にすると税金がかからない仕組みを作り安全な空き地を増やしてはどうか
- ・自然災害に対する脆弱性が露わになっている。特に阪神間は顕著だ
- ・危機に強くなるためにも産業基盤の強化や子供から高齢者まで住みやすい地域社会の設計が必要
- ・電線や電柱を地中に埋設し、二次被害が発生しないようにする

(地域防災)

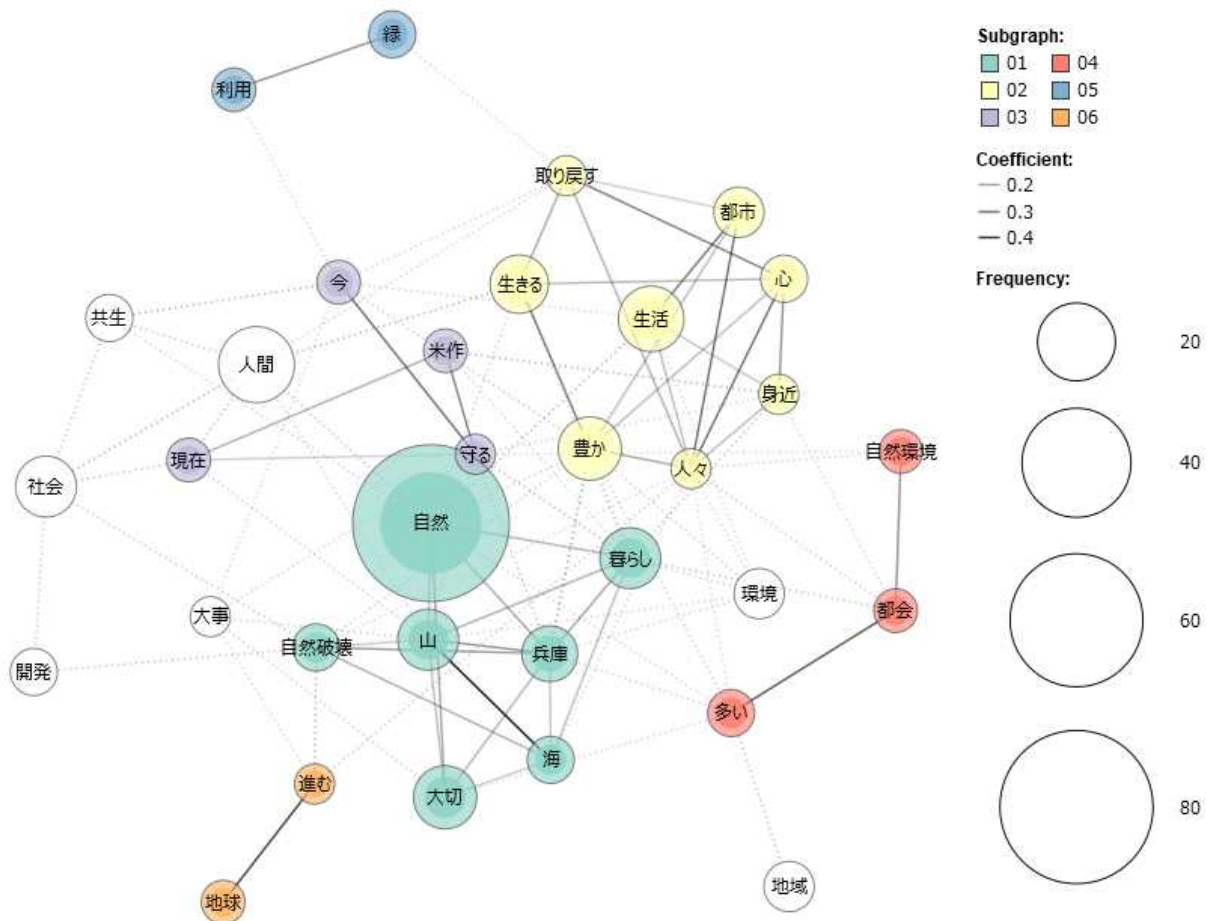
- ・弱者への思いやりが希薄になり、災害への対応力が弱まっているように思う
- ・南海トラフ地震は必ず起こる。まず生存できるようにすることが大切だ
- ・参加者平均年齢 70 歳の平日昼間の防災セミナーで、いざというときに動ける人が増えるのか
- ・啓発方法を真面目に考えるべき。チラシ入りティッシュの配布は、いい加減にやめてほしい
- ・強靱な都市を作ることも大切だが、それ以上に県民の一人一人が地域を守る意識を持つことが大事。学校教育で「郷土を守る」ことを教えること
- ・高齢化が進み、空き家が目立つ。人々がますます孤独になっていく傾向にあるように思う
- ・災害に負けない強さと賢さを備えた社会をつくるためには、子供の教育が結局一番の近道だと思う
- ・今やどこに住んでも安心とは言えない。危機意識を持って備える心構えが大切
- ・役所や地域の役員だけではいざという時に役に立たない。無関心な人は一定数存在するとしても、地域全体で取り組みができればと思う

第 10 位：22 自然と共にある暮らし (113 票)

～多様な自然環境を活かして質の高い暮らしを～

- ・重視すべき未来シナリオ第 10 位は「22 自然と共にある暮らし」である。選んだ理由を見ると、頻出語は多い順に「自然」「人間」「生活」「大切」「豊か」「山」「社会」「暮らし」「生きる」等である。
- ・頻出語間の関係を見ると、まず「自然」「大切」「山」「暮らし」「兵庫」「海」「自然破壊」の関連が強い。「人間は生物」「自然と共にある暮らしが人間の基本的な暮らし方」「自然を破壊すれば、その一員たる人類も滅びる」など、自然に囲まれて暮らすのが本来の人間のあり様だとの意見が多かった。
- ・また、「生活」「豊か」「生きる」「都市」の関連も強い。大都市に隣接して山、川、海の多様な自然環境を有する兵庫だからこそ、自然を感じられて都市のメリットも享受できる暮らしを東京、大阪にはない良さとして伸ばしていくべきとの意見である。
- ・その強みを伸ばすために、都市では空き家を間引くなどして、公園、農地など緑の空間を増やすこと、田舎では荒廃した森林の再生、農地の保全・活用、古民家の再生などが必要との意見が寄せられた。
- ・県土の大宗を占める多自然地域を中心に、今後人口減少によって更に低未利用の空間が拡大することは確実であり、実効性のある空間再生・活用の手立てを講じる必要がある。

順位	頻出語	出現回数
1	自然	84
2	人間	19
3	生活	14
4	大切	13
5	豊か	13
6	山	12
7	社会	12
8	暮らし	12
9	生きる	11
10	兵庫	10
11	環境	8
12	地域	8
13	都市	8
14	海	7
15	開発	7
16	共生	7
17	自然破壊	7
18	心	7
19	多い	7
20	緑	7



<主な回答>

<p>(自然あつての人間)</p> <ul style="list-style-type: none">・自然なくして人間の暮らしは成り立たない・人間は生物であり、人間が一番活気を持って生きられるのは自然の中で生きるときだ・自然と共にある暮らしが人間の基本的な暮らし方であるはず・自然を破壊すれば、その一員たる人類も減びる・自然の恩恵を忘れて、人の利だけを追い求めている傾向が多くみられる・自然は年齢問わず、心身に良い影響を与える・物質文明を追いかけることが良い社会につながる道という幻想が未だに生きています・地球環境を考え、経済性ばかりを追い求めるのではない社会になってほしい・地球温暖化が進む中、自然との共生が一層大事に・自然を忘れず、季節を感じられる生活をしたい・自然を感じながら生きていかないと偏った人間になりかねない・人の命の源泉は食。それを作るのは自然であり、自然から遊離して社会を営むことは不可能・いろんなシナリオの実現に自然との共生が不可欠	<p>(新しい暮らし方)</p> <ul style="list-style-type: none">・緑の中で暮らしたい・コロナで田舎が注目されていると感じる・テレワーク中心になりつつある現在、都会に住む必要性を感じなくなっている・今後一層在宅勤務が増えていくと思われるので、暮らしと自然が良い関係であることが大切だ・農事や釣行を楽しめる山村・海辺を生かして、移住・滞在を斡旋する機関があればと思う・自然を感じられて都市のメリットも享受できるのが東京でも大阪でもない兵庫の良さ・自然が手近なところにあり、簡単にアクセスできる環境を利用しない手はない・古民家の活用支援など、自然と共に生きる生活の不安感をなくす仕組みが必要
<p>(まちづくり)</p> <ul style="list-style-type: none">・都市の空間にできるだけ緑を取り入れるべき・歩道と自転車道を明確に区分する、駐車禁止を徹底するなど、道路の使い方を変える必要がある・街の中の不法看板は強制的に撤去すべき・現在は都市開発と郊外地域の過疎化のバランスが取れていない・土に携わることは本能を目覚めさせてくれる・公園を増やしてほしい。公園に住民が自由に花を育てたりできるスペースがほしい・子どもの保育園の園庭が狭く、平日、自然に触れる機会が全くない。身近に自然がある生活を望む・もっと自然の多い街作りができると心が安らぐ・住宅を間引いて過密を解消し、自然を増やすことで都会の殺伐とした雰囲気が緩和できると思う・空き地に低コストで借りられる農地を作る・維持費がかかるからと家を簡単に取り壊してしまうが、あるものをよりよく利用することが大切	<p>(自然の保全・再生)</p> <ul style="list-style-type: none">・動物と共生できる社会が望ましい・山の地肌ソーラーパネルが増え続けている・日本海と太平洋に接した五国の豊かな自然を建造物で損なうことなく、未来につなげたい・「自然と共にある暮らし」をしているが、周りでは廃屋と休耕田が増えるばかりだ・今ある自然とどう共生するか。荒れた里山や森林をもっと有効活用できないか・大切な森林が、一部以外荒れ放題。森林従事者の育成と生業ができるようになっていくことが重要・田舎を守るためには米作が重要。へき地、過疎地でも安心して暮らせるよう、米作の国家資格を創設し、その資格を持つ農業従事者を自治体職員と同等の給与と待遇で保護する制度を提案する・里山・里海は放置しても自然回帰しない。人が日常生活の中で関わる仕組みが必要だ・箱モノの開発を減らし、中長期にわたる自然回帰に投資を振り向けるべき・自然の恵みを享受することと災害対策を両立させる知恵のある政策が豊かな暮らしを生み出す・県内で消費する生活物資は全て県内産使用とする地産地消を目指したい・地産地消+地生（地域で生活する！）がゴール

(2) 第11位～第20位

第11位：5 磨かれる五国の個性 (90票)

- ・明治初期に歴史文化、気候風土の異なる五つの旧国が一つになった兵庫県の成り立ちに触れつつ、今でも根強い各地域の個性に改めて磨きをかけていくことが県全体の魅力を高めることになるとの考えが示されている。地域の個性を伸ばすためには、画一的な対応を避ける観点から行政機能や財源のより一層の分権が必要との意見も聞かれた。

<主な回答>

<ul style="list-style-type: none">・日本で唯一の五国からなる県。個性の異なる五つの地域が一つにまとまった特異性を発揮すべき・表日本から裏日本まである県は、本州両端を除けば兵庫しかない。この地理的特性を活かすべき・変化に富んだ土地柄を最大限に活かすべき・その地域にしかないものを磨き上げてほしい・地域ごとの個性が出ればそれぞれの魅力が引き立ち、旅するにも生活するにも満足度が上がる・バラバラな地域がまとまるのは難しい・地域の課題や特性が異なり、画一的な対応が困難・地域の多様性をさらに育むためには、行政機能や財源のより一層の分権が必要	<ul style="list-style-type: none">・兵庫県の特徴は自然と都会の融合。その良さをもっと生かす手立てを考えてほしい・コロナ禍で地方が見直されている。五国の魅力を世界にアピールする時だ・集中から分散への方向と合致し、兵庫の有利性を生かすことができる・インフラの地域格差がかなり大きい・地方を切り捨てるようなことはやめてほしい・いったん失われたものは元には戻らない。有形・無形の遺産の保存、継承に取り組んでほしい・多様な地域があると、職業選択の幅が広がる・行き来が困難。車以外の交通手段の整備が必要
--	---

第12位：14 つながりを広げ、深める社会 (88票)

- ・年代による差が顕著な未来シナリオである。高齢になるほど地域における人と人とのつながりが希薄化していると感じているが、若い世代はあまりそう感じていない。確かにSNSで頻繁にコミュニケーションを取り合っている人には人間関係が薄れているとは感じにくいであろう。
- ・バーチャルなつながりが日常化している人と、そうではない人の中で何を「つながり」と考えるかが乖離している状況がある。もちろん人は一人では生きていけない。孤立は望ましくないし、誰も取り残さない社会を築くべきである。だが、だからといって元あったつながりを取り戻そうとしても、それはうまくいかないであろう。新旧のつながりの接点をどう見出していくかが今後の課題である。

<主な回答>

<ul style="list-style-type: none">・人は一人では生きてはいけない・人と人との結びつきが希薄になり、殺伐とした社会になってきている・今の社会は助け合いや人の温もりが欠如している・田舎でも個化が進み、独居高齢者が増えている・安心して一人暮らしできるようになればと思う・マンションに引っ越したら、地域とつながるきっかけがないまま一年が過ぎた・地域にコミュニティがなく、断絶感がある・今の「進化」は機械化で人間らしさを感じなくなる方向に進んでいる	<ul style="list-style-type: none">・学校の統廃合により地域社会の分裂が進む・孤立した人が接触を求めてくることはまれ・地域の中での世代を超えたつながりが少ない・孤独死が現実問題になっている・取り残される人が増えたら安全な社会は築けない・イベントを中止するのは簡単だが、再開には大きなエネルギーが必要になる・プライバシーの保護が強調されすぎなのが問題・外出を控え、社会とのつながりを感じない日々だ・中間支援組織の育成、活性化に力をいれてほしい・ネット社会はボーダーレスな協働が可能
---	---

13位：21 都市と田舎の共生 (87票)

- ・大都市と自然豊かな地域が共存する兵庫の特性を活かす方向性として推す声が多かった。コロナ禍によるテレワークの広がりや、このシナリオの実現を後押しするとの声も聞かれた。「22 自然と共にある暮らし」の高評価を見ても、田舎の良さを活かした暮らし方への関心が高まっていると言えよう。
- ・一方で、現実には今後も都市への人口集中が進むのではないかと、地方では更に人口減少が進むので、暮らしを支える都市的機能の維持を図るためにコンパクト化は避けられない、との意見も聞かれた。また、田舎暮らしを広げる上で、農地の利用のしやすさを高める必要があるとの意見もあった。

<主な回答>

<ul style="list-style-type: none"> ・大都市と自然豊かな地域がこんなに見事に共存している県を他に知らない ・田舎が持つ良さを都市との共生で残してほしい ・いろんな生き方ができる兵庫であってほしい ・地方に優秀な人材が残る可能性を作ってほしい ・都会に住まなくても仕事ができる時代だ。兵庫は仕事と自然の中での暮らしを両立できる県だ ・田舎ならではの決まり事とか、都会の人には分からない風習も多いので、良い悪いではなく、気を付けるべきことなどをしっかり伝えてほしい ・田舎に住んでも都会に住んでも不便と心配がないことが大事 ・これができれば、職住の一体化、単身赴任や核家族の是正、高齢者の介護の問題の解決につながる ・都市から田舎へ、田舎から都市へ、双方向の交流により創発が期待できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・過疎化はさらに進む。田畑を解放し、都市部の人々と話し合いながら田畑の使い方を考えなければ、地区の管理ができなくなる ・地方分散を進めることは、農業を活性化し、食料自給率を上げることにもつながる ・コロナ禍の後も都市への人口集中は進むと思う ・都市への一極集中を避けるような施策が必要だ ・空き家のセカンドハウス化を模索すべき ・都市と田舎の生活が融合した状態を作りたい ・地方都市のコンパクト化を図る必要がある ・都市にしかないもの、田舎にしかないもの、どちらも大切。どちらかに偏ったらバランスが崩れる ・都市と田舎がより綿密に連携し、より良い相乗効果が生まれる政策を望む ・農地利用の規制など、都市から農村に人が入り込む際の障壁を取り払う必要がある
--	---

第14位：38 安全を支える強靱な基盤 (78票)

- ・安全は生活、経済活動を支える基盤、生きていく上での基本といった意見が多く聞かれた。
- ・安全の確保は行政の第一の仕事であり、社会基盤整備（ハード対策）だけでなく、地域の災害対応力を高めるための協働や助け合いの仕組みを整えることも大きな課題だといった意見があった。
- ・多くの県民が浸水想定区域に居住することを踏まえた標高の低い土地の利用のあり方など、100年単位の長期を見据えた安全な地域をつくる取組の必要性を指摘する声もあった。

<主な回答>

<ul style="list-style-type: none"> ・何より安全が大事で、生きていくための基本 ・毎日の生活が安全であること、これがすべてだ ・数ある将来構想の基盤となるものだと思う ・災害は必ず起こる。想定されるリスクのレベルを上げると共に、災害発生時の対応能力を向上させるための取組を進めて頂きたい ・安全を支える基盤（インフラ）の強化こそ行政の第一の仕事だ 	<ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化による社会の崩壊を止めてほしい ・災害ありきの事後対策から早く脱却すべき ・標高の低い土地の利用方法を再考すべき ・地域の防犯体制の強化も重要 ・百年先を見据えた投資を考え、子や孫にツケを残さず、資産を残すことが大事 ・ハードだけでなく、協働、支援、助け合いで安全の基盤を確立する必要がある
---	--

第 15 位：19 進む地域経済循環（69 票）

- ・地産地消の拡大をまずは図るべきであるとの意見が多かった。また、様々な地域課題をビジネスの手法で解決するソーシャルビジネスの育成が必要であり、その担い手となる人材の育成や、学習の場づくりが必要との声が聞かれた。面白い個人商店を増やすことが大事だとの意見もあった。

<主な回答>

<ul style="list-style-type: none">・様々なモノの地産地消を進める。地域内での人、モノ、知識の交流が進める必要がある・重工業に代わる新たな方向性を考える必要がある・県を小さな国に見立てて、各市町でいろんなモノを生産するようにして経済循環を作れないか・重工業主体の阪神間の活力が低下している。DX人材の育成に注力し、関連企業を誘致すべき・県内という視野の狭い考え方では伸びしろがない	<ul style="list-style-type: none">・温暖化などの問題を考えるとミクロな領域での循環の重要性が増していると思う・地産地消が拡大できる可能性を持った気候風土に恵まれた県である強みを活かすべき・面白い個人商店を増やすことが大切。個人企業、中小企業にもっと手を差し伸べてほしい・ビジネス手法で地域課題を解決できるよう、マーケティングや会計を学ぶ機会を増やすべき
--	--

第 16 位：25 快適になる移動（66 票）

- ・自家用車がないと生きていけない、バス等の公共交通機関の充実が必要であるとの声が多かった。
- ・車を所有しない方向性に共感するとの声も聞かれた。一層の人口減少により今のままでは維持困難な公共交通が増えることは確実なので、新たな移動手段の導入など思い切った取組が必要である。

<主な回答>

<ul style="list-style-type: none">・自家用車がないと生きていけない地域が多い・運転免許証返納で高齢者の移動が制限されている・移動が快適になれば、歳をとっても楽に暮らせる・「空飛ぶ車」「自動運転」よりは、まず地道な道路整備と公共交通機関の充実をお願いしたい・バスの使い勝手が低下している。高速道路の整備よりも、利便性の高い公共交通機関の整備が重要・車を所有しない方向性に共感	<ul style="list-style-type: none">・ゆっくり移動するという価値観が広がらないか・一極集中による弊害を解消するためには、地方の交通の便をよくする必要がある・自転車の活用と電車等への持ち込み可の拡大を・バスの運行ルートを見直し、いろんな会社のバスに乗り継いで遠方まで行けるようにしてほしい・神戸空港は海上空港の特徴を活かし、国内路線の充実、発着枠の撤廃、貨物便の運用拡大が必要
--	---

第 17 位：32 人に投資する社会（61 票）

- ・税金の使途をもっと人的投資にシフトすべきとの意見が多かった。その中では、教師の待遇改善など子供の教育環境の充実が最重要との意見が聞かれた。戦後日本の終身雇用体制が崩れる中で、会社任せではなく、社会全体で大人の再教育、学び直しをサポートする必要があるとの声もあった。

<主な回答>

<ul style="list-style-type: none">・人が最大の資源。人材育成にこそ税金を使うべき・インフラ投資よりも将来の人を育てることが重要・人づくり＝未来づくり。子供の教育が一番大事・人的投資は子供の教育環境を良くすることが基本であるべき。なかでも教師の待遇改善が必要・子供の教育では自然の原体験を重視すること・一握りの秀才も大事だが、全体の底上げが必要	<ul style="list-style-type: none">・終身雇用制が崩れ、会社が人を育てなくなった・人は勝手に育たない。人が育つ土台づくりが大切・日本社会はやり直すときのハードルが高い。やり直したい人をサポートする仕組みの充実が必要・人的交流を進める場を自治体は提供すること・近視眼的な成果を求めるのではなく長期展望を持って人や社会を見る視点が必要
---	---

第 18 位：7 進化する御食国 (59 票)

・多様な働き方の一環として多くの県民が農業に関わる形を作っていくべきとの意見があった。農業の発展に向けて、海外先進国に学ぶこと、科学的アプローチの重要性、企業参入の拡大、地産地消の徹底などが必要とされている。どんな状況になっても食に困らない地域が理想との声もあった。

<主な回答>

<ul style="list-style-type: none">・農業を絡めて多様な働き方を広げるのがよい・食を軸にした循環型経済システムを作るべき・耕作放棄地を企業に譲渡するなどして積極的に活用してもらうのが最も現実的な対策・持続型農業のあるべき姿に科学的にアプローチすべき。有機栽培や自然農法だけでは不十分・兼業農家の多い兵庫県は、いろんな農業スタイルを選びやすいのではないか	<ul style="list-style-type: none">・地産地消を徹底すべき。県産品が地元スーパーに出回る状況を作らないといけない・イスラエルとオランダからもっと学ぶべき・海外との食の文化交流を進めてほしい・どんな状況になっても飢え死にすることのない地域になれば、もっと自由な生き方が可能になる・金持ちしか買えないような高級食材に力を入れるのは違うと思う
--	--

第 18 位：23 自由になる働き方 (59 票)

・コロナ禍を通じて、今とは違う働き方があることに気付いた県民が多いと思われる。テレワークなど働く＝入社するではない働き方や、副業・兼業など一つの組織に縛られない働き方を求める声に応えていく必要がある。ショートワークが広がる中、正規・非正規の格差解消も大きな課題である。

<主な回答>

<ul style="list-style-type: none">・今現在、働き方の多様性が認められていない・一つの組織に縛られると考える力が衰える・働く＝入社するではない働き方になってほしい・フルタイムの働き方は将来なくなってほしい・副業が広がれば会社に依存しなくてよくなる・週休 3 日制になれば新しいことをしやすくなる・中小企業もテレワークできるようになってほしい・終身雇用制度があるから能力が向上し続けない	<ul style="list-style-type: none">・正規・非正規の格差がない雇用を促進すべき・テレワークの更なる拡大を。都市と田舎が隣接する兵庫県はテレワークの適地だ。・会社に所属する以外の働き方の選択肢がほしい・コロナ禍で働き方が大きく変化。これを機にテレワークが定着し、週休 3 日制なども広がればよい・隙間時間にできるショートワークの拡大を・働き方が自由になれば、田舎暮らしも増える
---	--

第 20 位：29 甦る豊かな自然 (57 票)

・森林の再生や耕作放棄地の解消が大きな課題と認識されている。自然を単に保全するのではなく、県民の生業につなげるなど、生活のためにうまく使っていくことが大切だとの意見も聞かれた。豊かな自然があることが情操教育や人間の精神の安定に不可欠だと意見も聞かれた。

<主な回答>

<ul style="list-style-type: none">・失ってしまったからでは遅い・イカナゴの不漁や森林の荒廃に心を痛めている・奥山の杉・檜を伐採し、広葉樹・照葉樹の森に・森林の保全・再生は気候変動対策としても重要・耕作放棄地ゼロをめざすべき・河川の護岸をコンクリートから自然に変えていく・自然を破壊するメガソーラーは禁止すべき	<ul style="list-style-type: none">・自然に親しめる環境は子供の情操教育にも必要・緑豊かな空間は精神の安寧に不可欠・利便性を追求する流れを止める必要がある・風土資産を最大限生かすような生業と持続可能なコミュニティづくりを戦略的に進めるべき・身近な自然を楽しめるロングトレイルを整備する・自然は所有権より使用权で考える必要がある
---	--

(3) 第21位～第39位

順位	未来シナリオ（得票数）	主な回答
21位	4 沸き立つ起業 (55票)	<ul style="list-style-type: none"> ・起業する人を積極的に応援する地域になれば、若い人が集まり、住み働き、家族を構成することにつながるはず ・製造業だけでなくあらゆる分野の産業が活性化する必要がある、そのために起業が活発になる必要がある ・「金は出すが口は出さない」行政による支援を望む ・会社員になること以外の選択ができる環境づくりが大事
21位	12 ユニバーサルな地域 (53票)	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な背景のある市民が行き交う地域社会がゴールだ ・ユニバーサル化の提案を市民から募って実施するとよい ・ユニバーサルデザインの理念と現実がかけ離れている ・高齢者、障害者が楽に出かけられる地域をまず作るべき ・都心三宮が段差だらけ。都市計画はどうなっているのか ・様々な障壁があって当然と思うが、なくす努力は必要
23位	10 なくなるジェンダーバイアス (48票)	<ul style="list-style-type: none"> ・性差別が根強く残っており、生きづらさを感じる ・男女で役割が違うという意識に囚われている男性が多い ・ジェンダー平等でなければ兵庫県の人口は減るばかり ・政治の分野で活躍する女性が増えると世の中が変わる ・今は過渡期で仕方がないことだが、女性だから下駄をはかせてもらえるという状況は本来望ましくない
24位	9 世界に貢献する兵庫人 (45票)	<ul style="list-style-type: none"> ・世界とのつながりが地域の今後の発展の鍵になる ・多様な文化の人と混じり合っ育つことが大切 ・尊敬される人や国とは。まずそこを突き詰めてほしい ・海外の大学への進学を増やす取組を行うべき ・家計の制約で留学できない学生を支援する制度がほしい
24位	30 息づく芸術文化 (45票)	<ul style="list-style-type: none"> ・アートは無駄ではない。生きる力になるものだ ・なくても生きていけるものが人生を豊かにしてくれる ・芸術は心豊かにするだけでなく、世界の共通言語である ・もっと幅広い芸術（例えば落語）を育てる取組をすべき ・資源を活かして芸術による地域振興をもっとやるべき
26位	17 広がる縁 (42票)	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して暮らすため、楽しい老後のために必要 ・孤立無援にならないように、元気なうちから趣味を持ち、会社以外に居場所を作る努力を個々人がすべき ・強制ではなく、自然と仲間が集まるような形がよい ・つながり合って補い合う社会であってほしい
27位	28 引き継がれる風景 (35票)	<ul style="list-style-type: none"> ・どこに行っても同じチェーン店ばかりの風景だと思う ・変えた方がよいこと、変えない方がよいことがあるが、風景は圧倒的に後者だ。地域住民がその価値に気付いていないようなものに実は素敵な価値がある ・これ以上マンションを増やさないでほしい

順位	未来シナリオ（得票数）	主な意見
28位	<u>26 進化する自治体</u> (34票)	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で自治体の対応能力向上の必要性を痛感 ・自治体のデジタル化が急務。デジタル化の遅れ→業務効率化の遅れ→税金の無駄遣い、ということ認識すべき ・自ら変わっていかないと社会との差が開くばかりだ ・意思決定と業務プロセスの根本的な見直しが必要 ・都市部の自治体は特に民間との交流・連携をすべき ・医療等のデータの一元化を進めるべき ・ICTを駆使して直接民主主義的な運営をめざすべき
28位	<u>36 カーボンニュートラルな暮らし</u> (34票)	<ul style="list-style-type: none"> ・政府・自治体が自然エネルギーの普及にもっと投資すべき ・新築住宅への太陽光発電パネル設置を義務化すればよい ・地域の自立の意味からも、循環型経済へシフトすべき ・電気を使わない生活を楽しむ文化を育てていくべき ・農漁業での取組にも力を入れてほしい ・県産材を使った暖房を推進してほしい
30位	<u>35 地域のエネルギー自立</u> (33票)	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの地域に合った形で小型の発電を進めるべき ・利用者の減ったゴルフ場を太陽光発電所にすればよい ・エネルギー自給の前に食料自給を目標にすべき ・電力会社任せではエネルギー自立は達成できない ・放射性廃棄物という負の遺産を未来に託して恥じない社会の有り様はやはりおかしい ・自然エネルギーを利用する過程で従来エネルギーを使っている結局グリーンではないのではないのか
31位	<u>39 受け継がれる地域</u> (28票)	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化、過疎化で限界集落化が進行。人口減少の中で自分たちの地域をいかに存続させていくかが今後の課題 ・地域の自治が大事。基礎自治体の持続可能性が重要 ・人と人の信頼関係で築かれた良き社会を作る必要がある ・地域で縦のつながりを生み出す工夫がもっとあってよい ・個々人の心の中に地域の良さが残ればそれでよい
32位	<u>20 自分たちでつくる地域</u> (27票)	<ul style="list-style-type: none"> ・今まであまりに行政任せになっていたと思う ・町内会長、地方議員のなり手がいない。誰かがやるではなく、主役は自分と表明できる社会になってほしい ・硬直的な縦割り行政を打破し、民間の知恵と創意を取り込んだ地元発の取組が求められる
33位	<u>18 スポーツが育むつながり</u> (24票)	<ul style="list-style-type: none"> ・医療費負担増を抑えるにはスポーツ環境の整備が必要 ・健康寿命を伸ばすためスポーツを通じた交流を図るべき ・たくさんあるプロスポーツの横連携で兵庫県一丸となってスポーツを盛んにしてほしい ・心身共に健康な生活を送るためには、スポーツだけでなく、健全な遊び、娯楽が手軽にできる環境が必要

順位	未来シナリオ（得票数）	主な意見
34位	<u>33 開かれた学校</u> (23票)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の学校はまだまだ受験勉強の場所に止まっている ・不登校の子供がリモート授業を受けられるようにすべき ・地域の人に勉強や部活動のサポートをしてもらうなど学校と地域で子供を育てていく方法を考えるべき ・6・3・3制をやめて成長に合わせて学ぶ場を選択できるような制度に改めるべき ・塾の費用が高額。貧富の差が子供の将来に影を落とす
35位	<u>24 軽くなる住まい</u> (19票)	<ul style="list-style-type: none"> ・自由に住む場所を変えられるという発想が斬新 ・持ち家にこだわる意識の変革が必要 ・中古住宅がすごく低家賃で提供されると生きやすくなる ・これ以上開発をせず、空き家を有効活用して快適・廉価の住みやすい街をつくるのが大切 ・多くの人がテレワークに移行できる環境整備が重要
36位	<u>34 未知の領域への挑戦</u> (17票)	<ul style="list-style-type: none"> ・若者中心の自由な取組ができる場が数多くあってほしい ・最先端の研究をすれば、優秀な人材が集まってくる ・好奇心がある限り、人間は前へ進んでいける ・地方創生の大胆な構想と実践に期待する ・これまでの常識に捉われない挑戦が未来を切り開く
37位	<u>27 とともに創るまち</u> (15票)	<ul style="list-style-type: none"> ・まちを人中心に作り変えるという主張に強く賛同する ・三宮をはじめとした主要駅周辺の環境整備が肝要 ・道を中心に人にやさしい街を作っていきたい ・一人ひとりがより良い街を作る意欲を持つことが大切。そのための学びと対話を深められる場を作る必要がある
38位	<u>13 バーチャルが拓く可能性</u> (10票)	<ul style="list-style-type: none"> ・身体が不自由でも旅行したりできる世界は夢のようだ ・バーチャルが拓く可能性は無限にある ・リアルの世界の閉塞感に風穴が開くのでは ・高齢者等を置き去りにしないよう、すべての人が使いこなし、便利になるという点を意識して進めることが重要
39位	<u>31 広がる生活文化産業</u> (8票)	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史を大事にした地域産業が活性化することに期待 ・生活文化が均一化。もっと多様な文化が育ってほしい ・「23 自由になる働き方」は、もっと働けと言われているようで嫌だ。地域の多様性を活かして体験価値を提供する生活文化産業が各地に育つと就業機会が増えると思う

問3 その他将来構想試案への感想、新しい将来ビジョンへの意見

(1) 将来構想試案の構成に関して

- ・未来シナリオの数が多すぎるとの意見が多数聞かれた。いずれも大切なシナリオであり、取捨選択が難しいとしても、大胆に項目を絞り込んだ、明確で分かりやすいビジョンが求められている。

<主な回答>

<p>(プラス評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3つどころか大切な事項ばかり ・すべて必要で、優劣をつけられるものではない ・未来志向の検討がされていることを知り、嬉しい ・難しいが、考えさせられる試案だ <p>(マイナス評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シナリオが多すぎる。欲張り過ぎだ 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の延長線上のシナリオが多い ・すべてが独立しているわけではなく、こちらができたなら、こちらも解決する的なシナリオが多い ・項目を整理して、もっと分かりやすく示すべき ・一つの統一体系になっていない ・シナリオに重複感がある。明確に達成したいビジョンをビシッと絞るべき
---	--

(2) 将来構想試案の内容に関して

- ・ポイントを絞るべきであり、一つ選ぶとすればそれは子供の教育であるとの意見が聞かれた。未来は今の若者、そしてこれから生まれてくる者のためにあるとの主旨である。また、よりフェアな社会、もっと普遍的で、人間らしさを置き去りにしない世界をめざすべきとの意見も印象深かった。

<主な回答>

<p>(人口減少・超高齢化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この状況で兵庫県だけ発展することは有り得ない ・人が集まるビジョンが必要。定住者を増やす政策は、長期にわたって活気を生む ・人口が減っても楽しく生きられる社会を作らなければならない ・各地域を何人ぐらいの人口にしたいかは示すべき <p>(方向性1「個性の追求」)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・造船等以前の主力に代わる工業が育っていない ・文化の違いを無理に一つにまとめる必要はない ・従来のブランド価値に依存している割に、そのブランド価値を高める方向性が弱い ・個々の価値観は多様。多様な価値を擁護し、インキュベートする装置づくりが必要 <p>(方向性2「開放性の徹底」)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性の力が活きる社会をめざしてほしい ・高齢者が活躍する社会であることが必要 ・外国人が安心して暮らせる租界を作ってはどうか <p>(方向性3「つながりの再生」)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心して暮らせる社会なら、前向きになれる ・安心は人それぞれ違うが、まずは基本的な生活が成り立つことが条件 ・子供を産み育てたいと思える環境の整備を望む 	<p>(方向性4「集中から分散へ」)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域格差が兵庫県の弱点。人口の分散をどのように加速させるかが重要課題 ・人口を阪神間からその他の地域へ分散させることができれば兵庫県はもっと豊かになる ・都市と地方が一体的に活性化する構想が必要 <p>(方向性5「美の創生」)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェアな社会の実現を打ち出してほしい ・便利さ優先で機械化を進めるような、人間らしさを置き去りにした世界は望まない ・人間の哲学的・倫理的な面をもっと考えてほしい ・他府県との差別化ではなく、もっと普遍的なものをめざすビジョンを期待 <p>(方向性6「次代への責任」)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進み、高齢者重視の傾向が更に強まるのではないか。未来は子供や若者のためにある。未来を見据えたビジョンにしてほしい ・若者が夢を持てる世界になってほしい ・一番の問題は教育。ここにポイントを絞るべき ・学校教育を変えていかないと日本が危ない ・県版ナショナルトラストを提案する。山の寄付を募り、ボランティアを募って整備する。
--	--

(3) 兵庫県の新しい将来ビジョンについて

(新ビジョンの策定方法に関して)

- ・新ビジョンの策定に当たっては、県民の声を幅広く聞くべきであり、なかでも 30 年後の社会を担う若者世代の意見を聞くべきとの意見が聞かれた。内容の絞り込み・重点化を求める声も多かった。

(新ビジョンの具体化に関して)

- ・新ビジョンの具体化に期待する声が多かった。ビジョンを絵に描いた餅にしてはいけないとの主旨である。また、具体化に際してはポイントを絞り、革新的な取組を進めるべきとの意見が聞かれた。
- ・兵庫だけでできることは少なく、大阪、京都等と一体となって取り組むことが重要との声もあった。
- ・進捗状況をオープンにし、関係者を広く巻き込みながら取り組むことが大切との意見もあった。

<主な回答>

<p>(新ビジョンの策定手法に関する意見)</p> <ul style="list-style-type: none">・現状の延長線上に未来はないので、少なくとも 40 代までの世代に考えさせるべき・もっと重点化しないと虻蜂取らずになる・何を目指しているのかが見えない。どこを目指しているのか丁寧に県民に示す必要がある・未来に向かって歩むには多数の意見が必要だ・もっと県民に問いかけることが大事だ <p>(新ビジョンの具体化に関する意見)</p> <ul style="list-style-type: none">・変化を怖れずどんどん前に進めてほしい・SDGs を踏まえた将来構想の具体化を望む・絵に描いた餅とならぬよう、具体化を希望する・ポイントを絞って行動に移す必要がある	<ul style="list-style-type: none">・画期的な施策でも受容されないとうまく行かない。あらゆる関係者を巻き込んで推進してほしい・前例主義を捨て、全国初の事例を連発するぐらいの革新的な取組をしてほしい・県の基本施策が、こうした将来構想と関連づけて作成されることに期待する・庶民感覚を大切にし、一歩進んではその時の状況を精査し、修正しながら進むことが大事だ・県が掲げるのは無理なものもある。「やりたいこと」よりも「できること」を確実に進めてほしい・進行状況を常にオープンにしてほしい・国全体の話で、県では解決できないことが多い・兵庫単体ではなく、大阪、京都等と取り組むべき
--	--